

【2008年11月現在】

真生一文字

施工マニュアル

目 次

§ 1. 真生一文字の製品説明	2
1. 真生一文字の特長	2
2. 真生一文字Ⅰa型の形状及び寸法	3～7
3. 真生一文字Ⅱ型の形状及び寸法	8～12
4. 真生一文字付属品の形状及び寸法	13
§ 2. 真生一文字の施工順序	14
1. 下地寸法の決め方	14
2. 軒先唐草取付	15
3. アスファルトルーフィング下貼り	16
4. 墨出し	17
5. 真生一文字取付	18～19
6. 真生一文字Ⅱ型取付要領	20～21
7. 軒先、けらばの納まり	22
8. 棟包の取付方	23
§ 3. 方形及び寄棟屋根の施工	24
1. 降り棟コーナーの納まり	25
2. 棟頂点部の納まり	26
3. ハマグリの納まり	27
4. 雪止めの取付	28
§ 4. 外部と屋根の納まり	29
§ 5. 外壁と流れ側の納まり	30
§ 6. 谷樋と屋根との納まり	31
§ 7. 製品の取扱い及び保管	32

§ 1. 真生一文字の製品説明

真生一文字の上、下はハゼ構造で左右は差込み方式とし、施工性、防水性、耐久性を十分に満たす、画期的な一文字葺屋根材です。

1. 特長

1) 差込み工法

端部継手は、つかみ込み不要のワンタッチ差込み工法です。
今までになかったスピード性(1日20坪:当社テスト比)を実現しました。

2) 本格ハゼ

各コマを本格ハゼで継いでいるので、熱伸縮が吸収され、アバレ、ムクレを防止します。

3) お手頃サイズ

1300mm以内の長さとしているので、持運びが簡単で、腰折れなどの損傷がありません。

4) 美しい目地通り

ワンタッチ差込み工法のため、横ハゼの段落ちがなく、すっきりと目地が通り、美しい仕上がりになります。

5) 優れた防水性

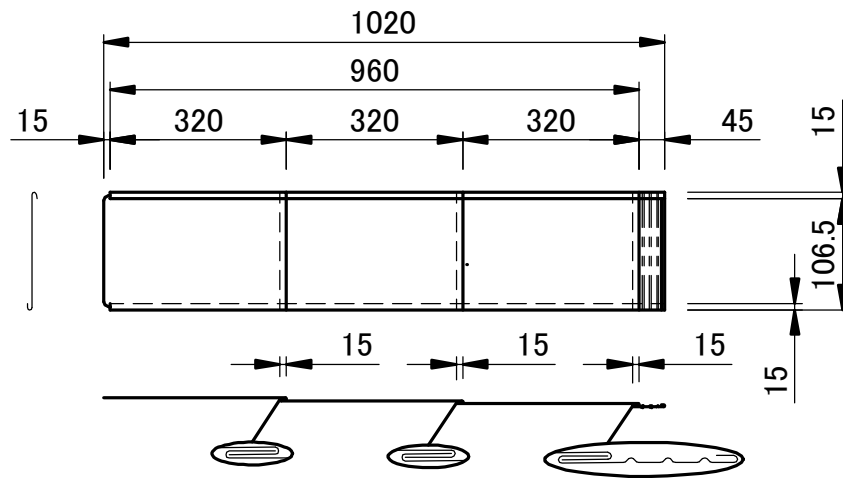
ハゼを全てつぶしていないので、毛細管現象による雨漏りがありません。上・下ハゼの切欠きも有効に働きます。

6) 1坪梱包

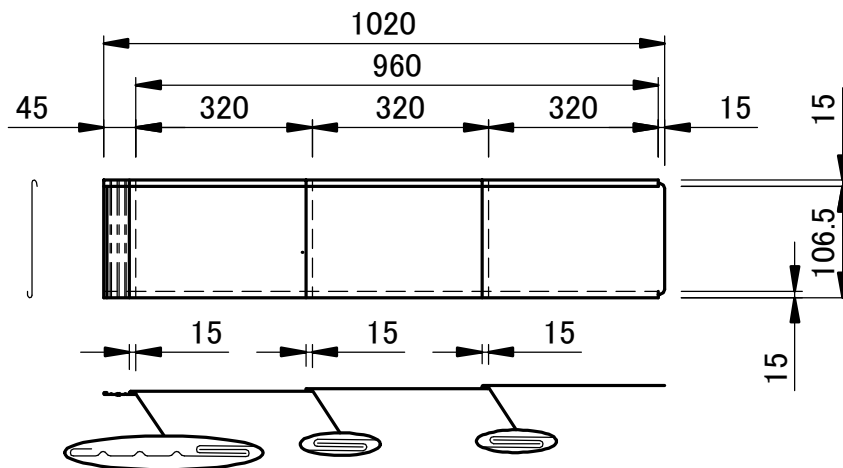
計算のいらぬ1坪梱包としています。

2. 真生一文字 I a型の形状及び寸法

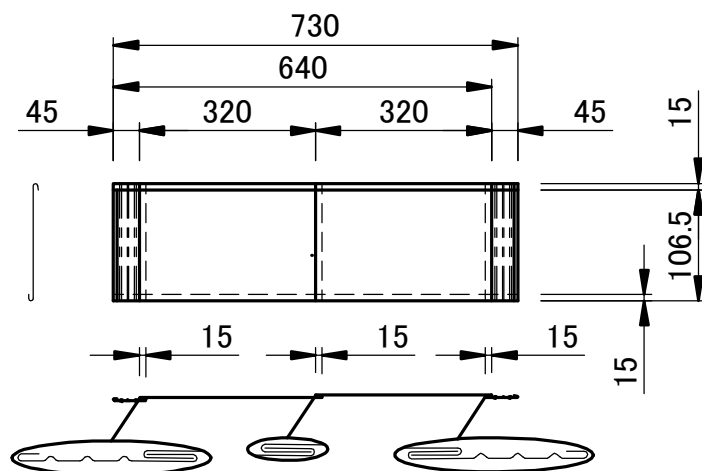
右 葺



左 葺



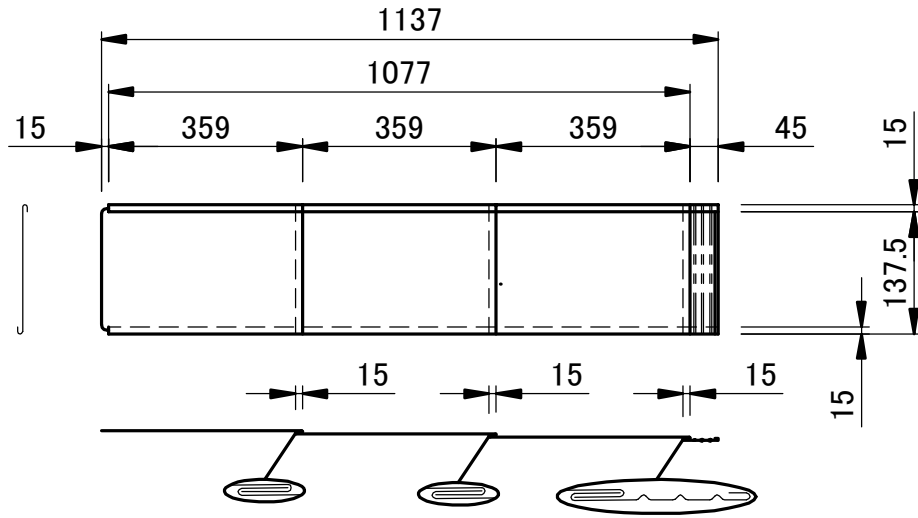
中央葺



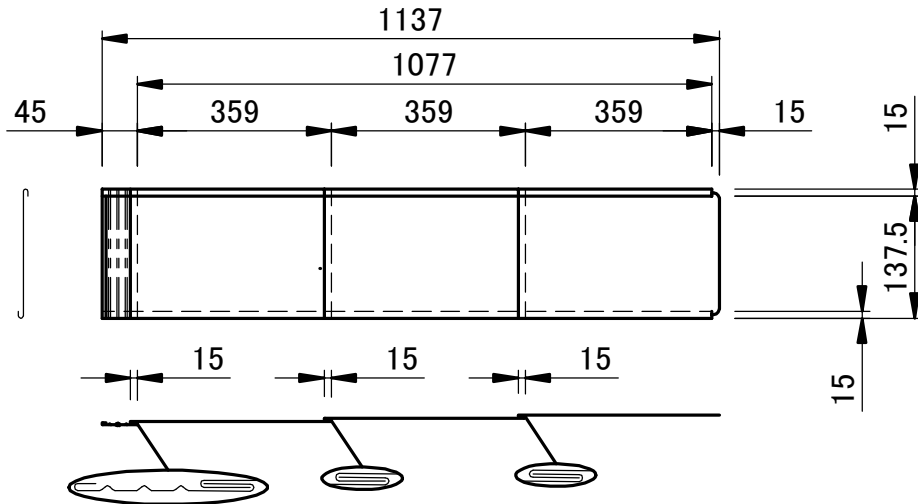
(受注生産品)

137型

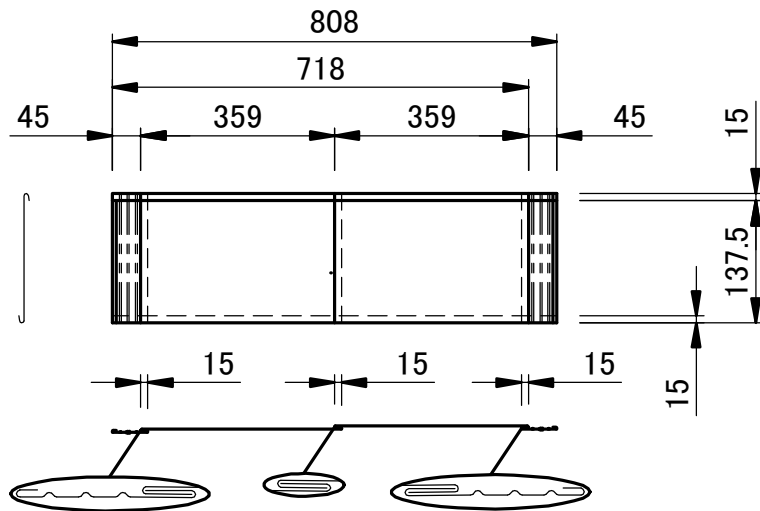
右 葺



左 葺



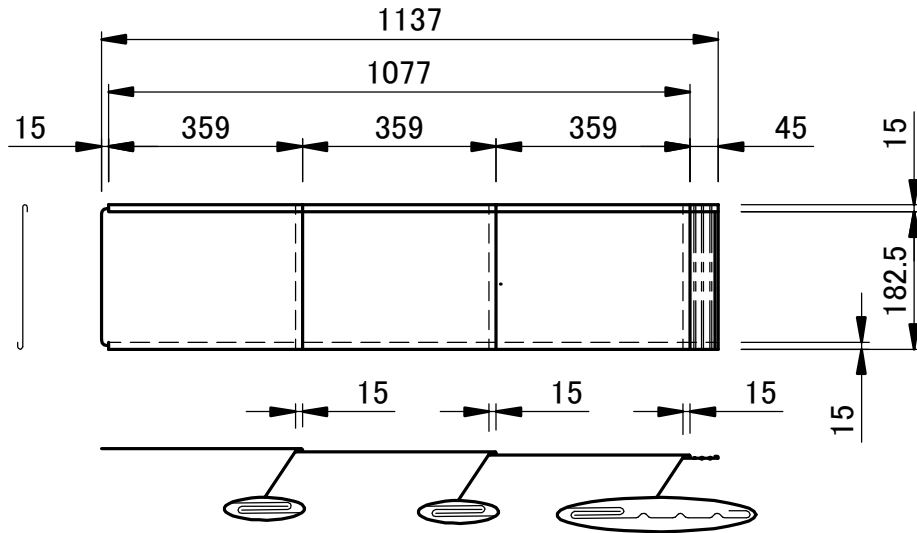
中 央 葺



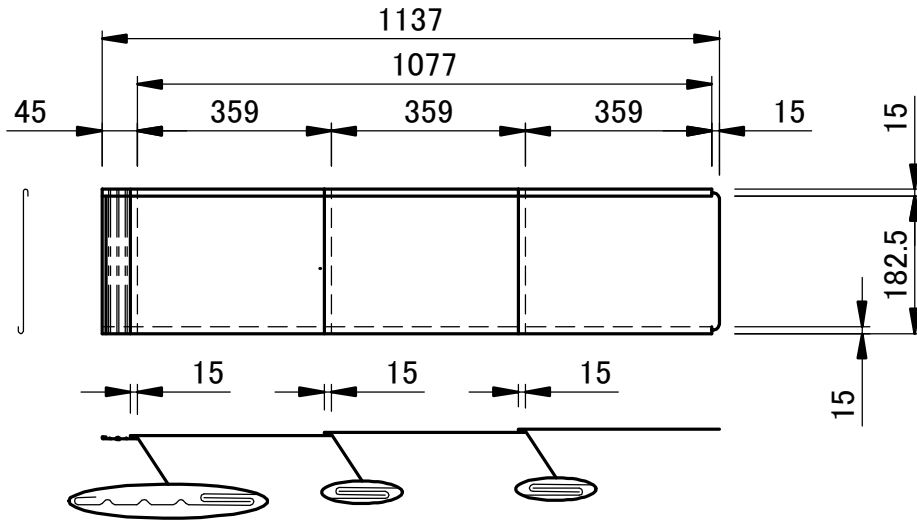
(受注生産品)

182型

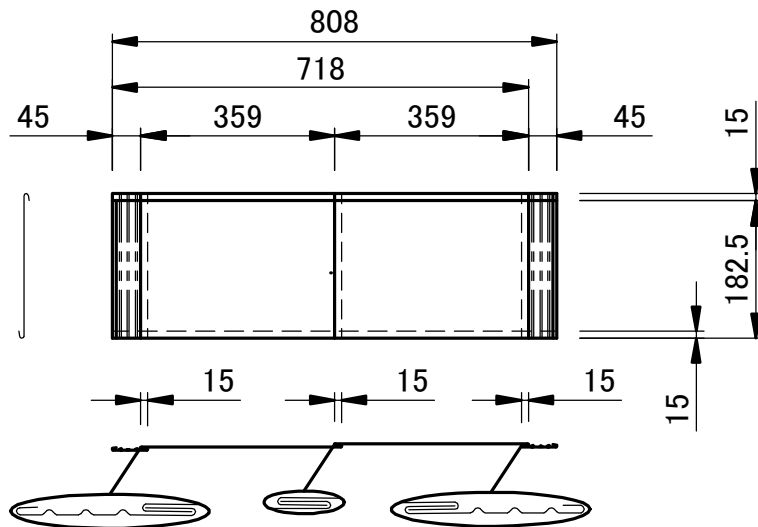
右 葺



左 葺



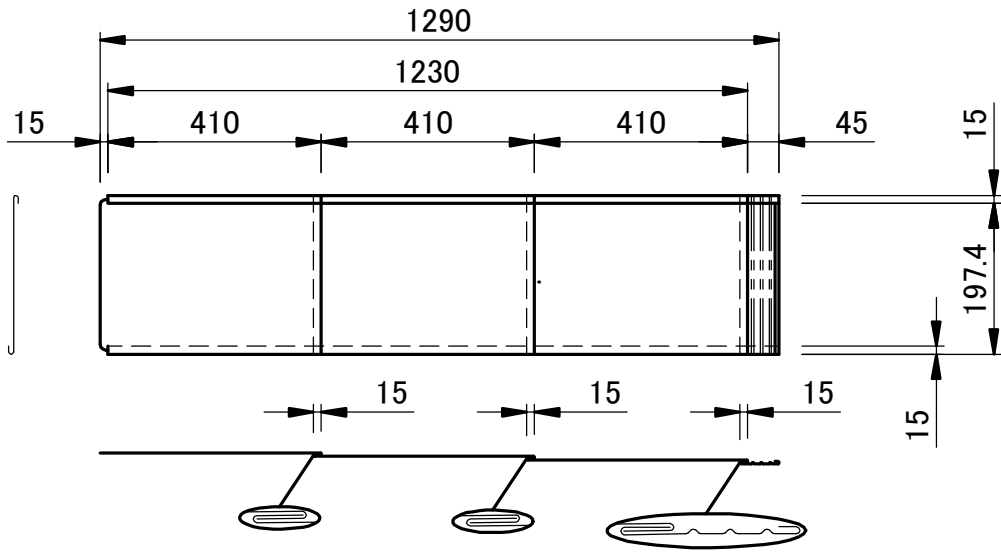
中 央 葺



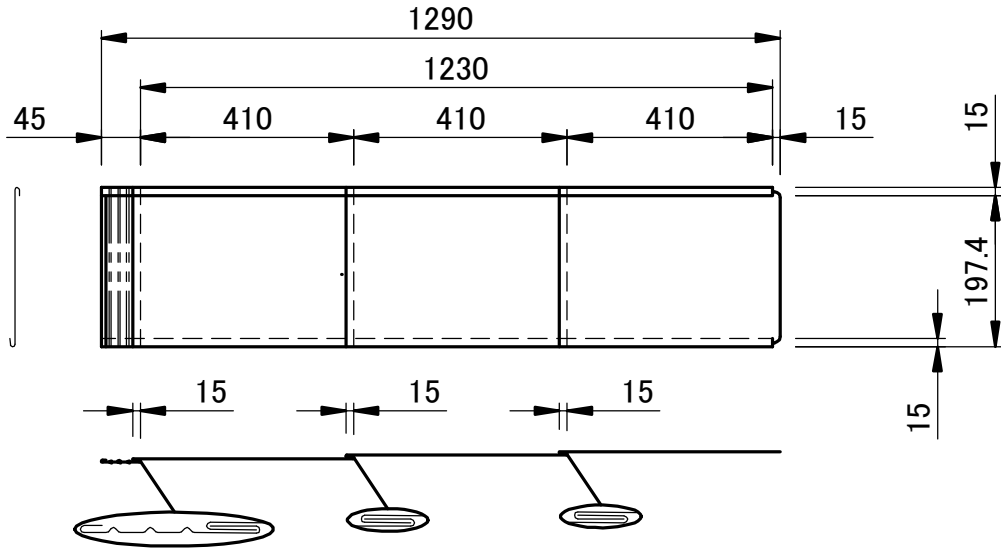
(受注生産品)

197型

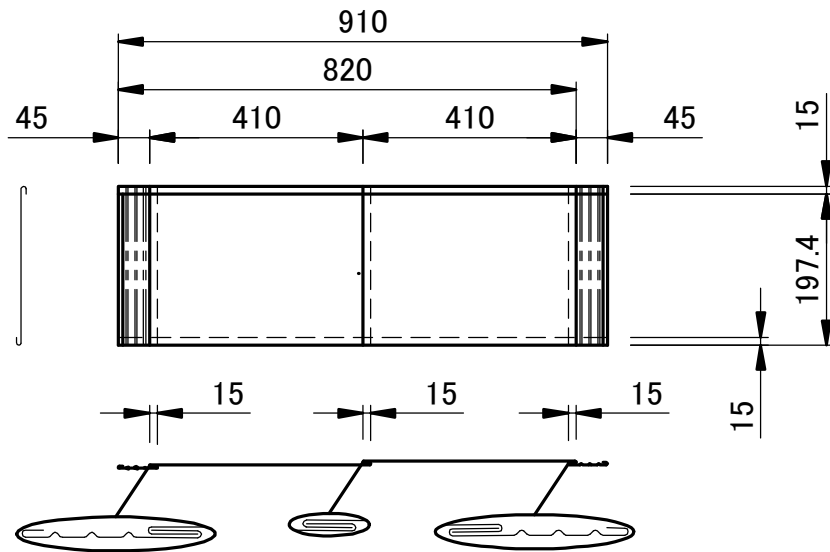
右 葺



左 葺



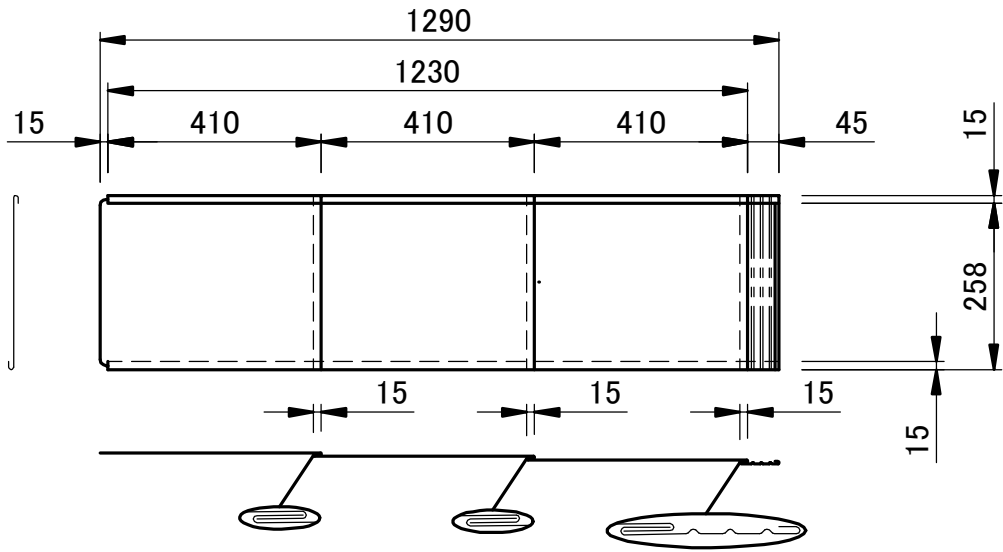
中央 葺



(受注生産品)

258型

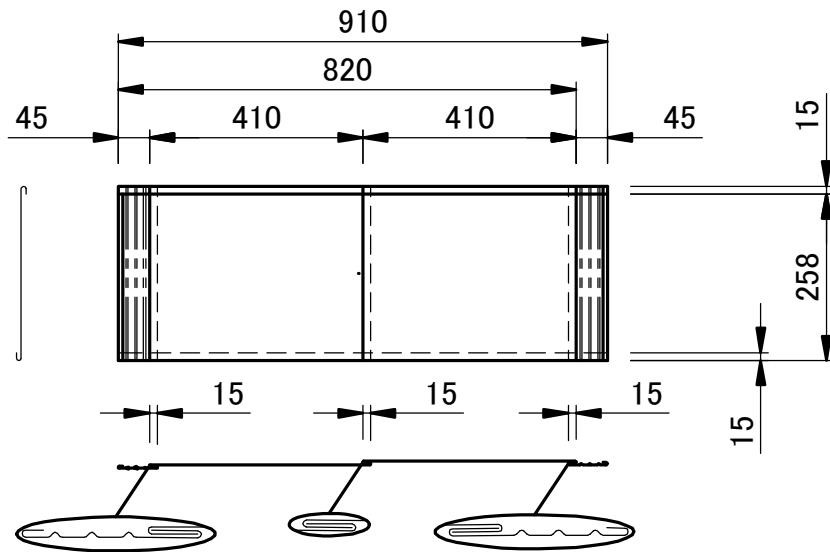
右 葺



左 葺



中央 葺

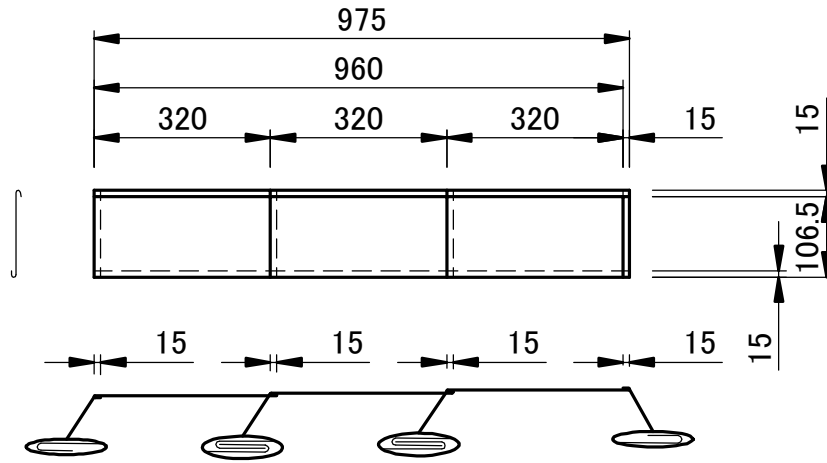


(受注生産品)

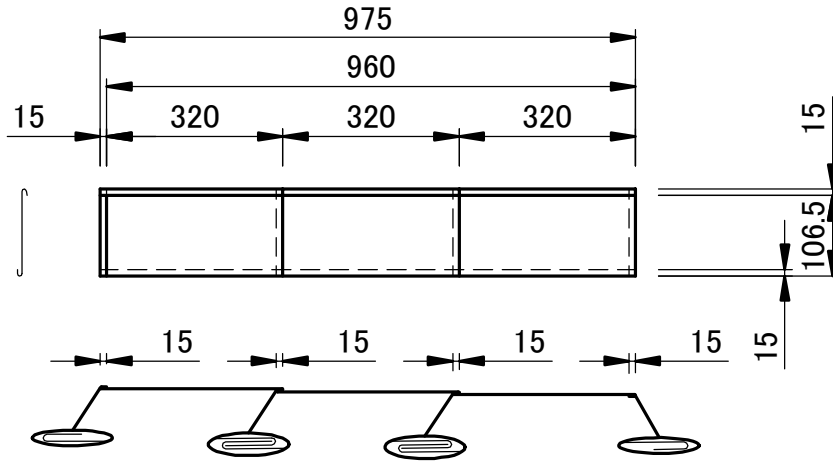
106型

3. 真生一文字Ⅱ型の形状及び寸法

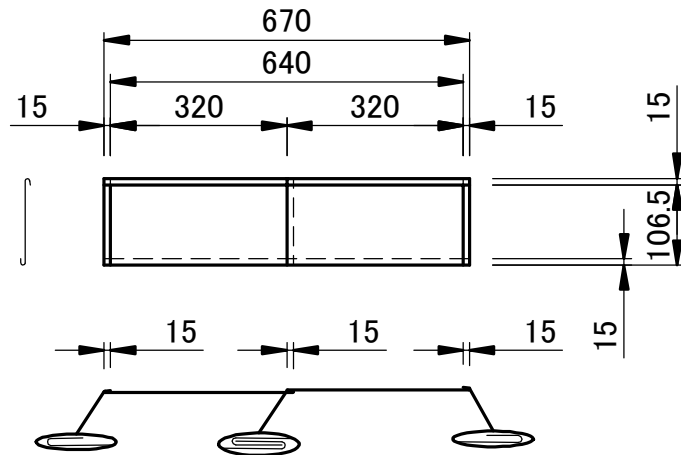
右 葺



左 葺



中央 葺

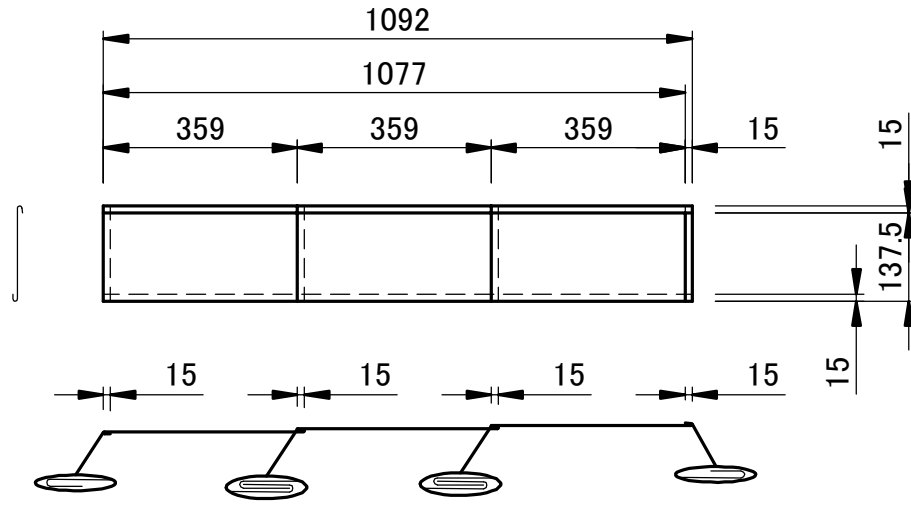


(受注生産品)

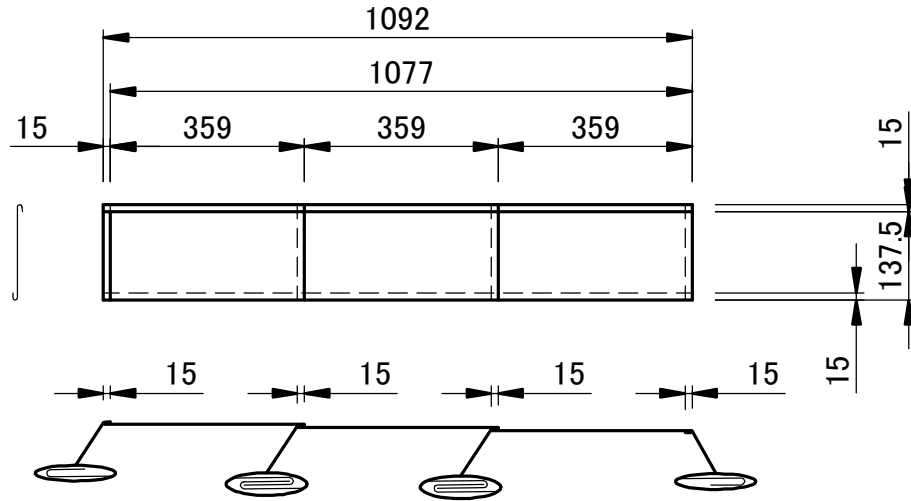
※右葺用・左葺用は兼用

137型

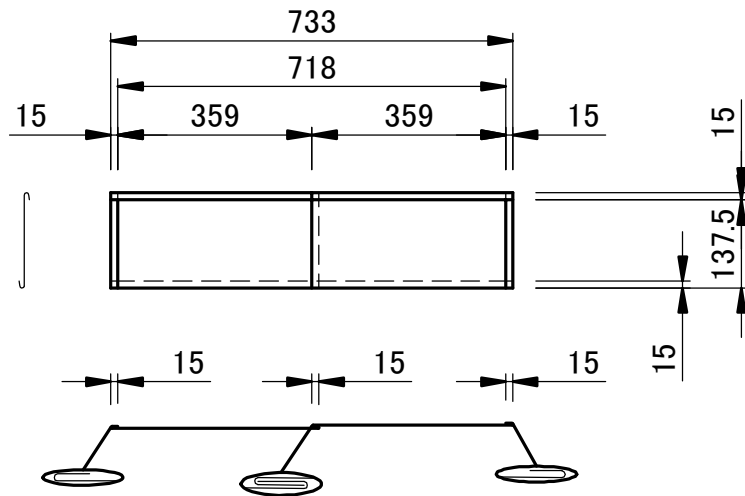
右 葺



左 葺



中 央 葺

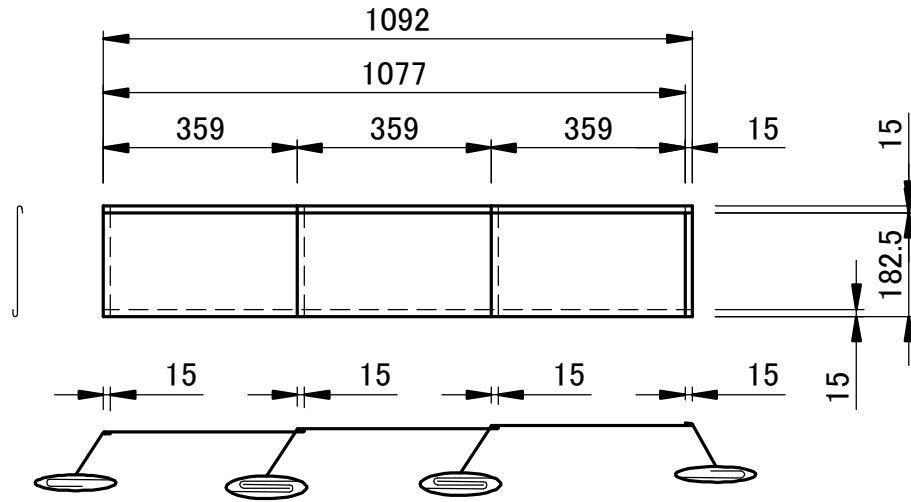


(受注生産品)

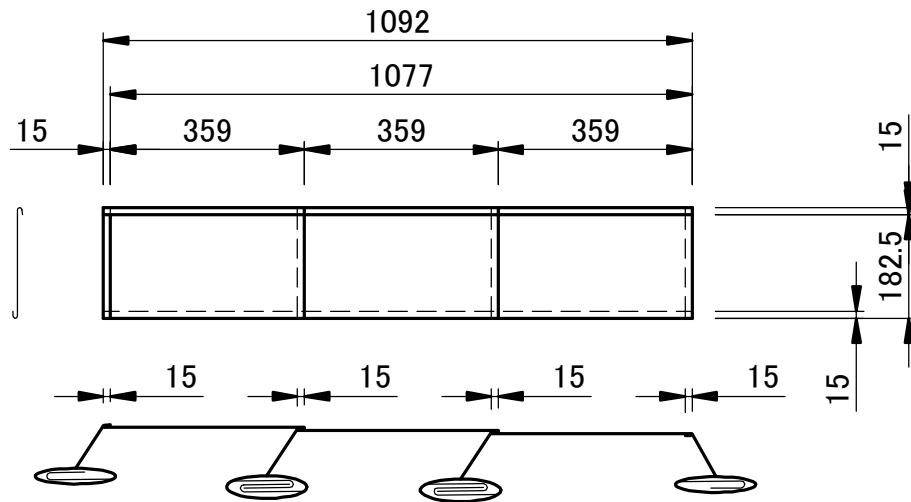
※右葺用・左葺用は兼用

182型

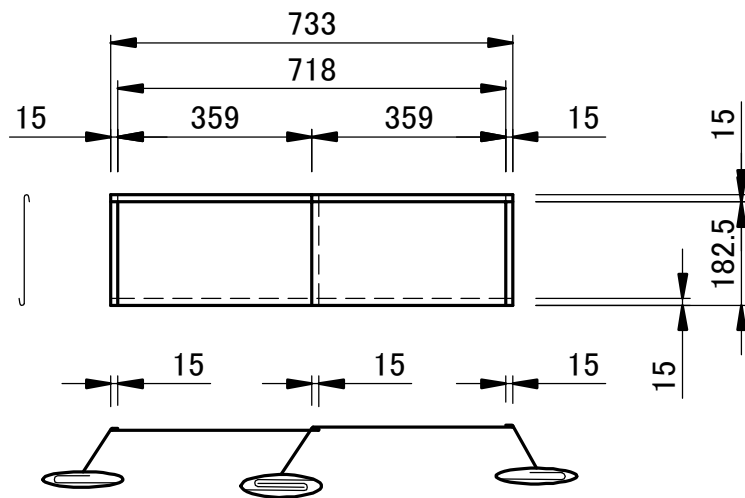
右 葺



左 葺



中 央 葺

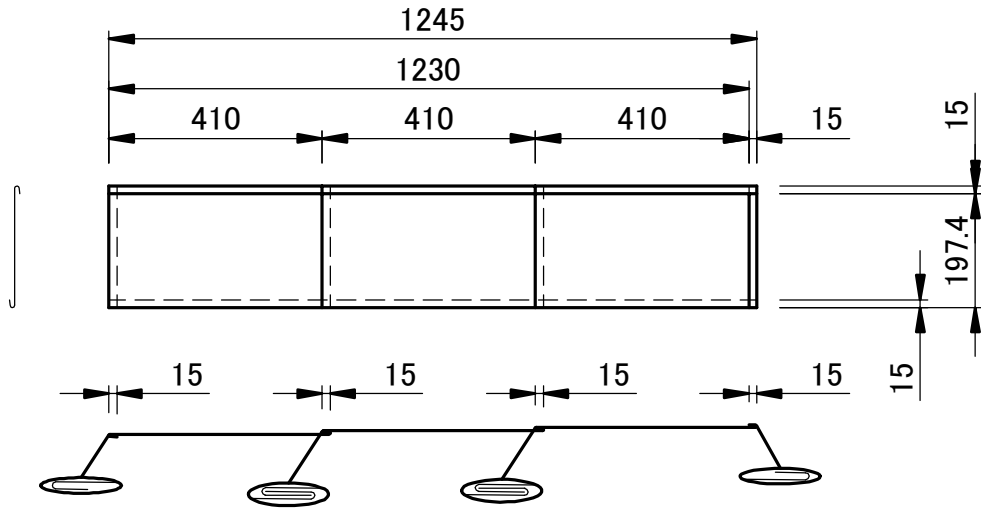


(受注生産品)

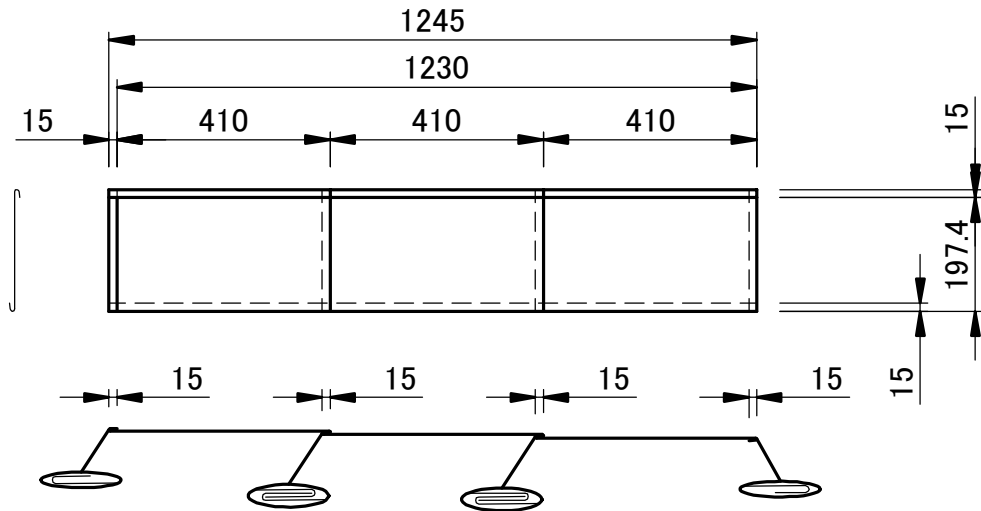
※右葺用・左葺用は兼用

197型

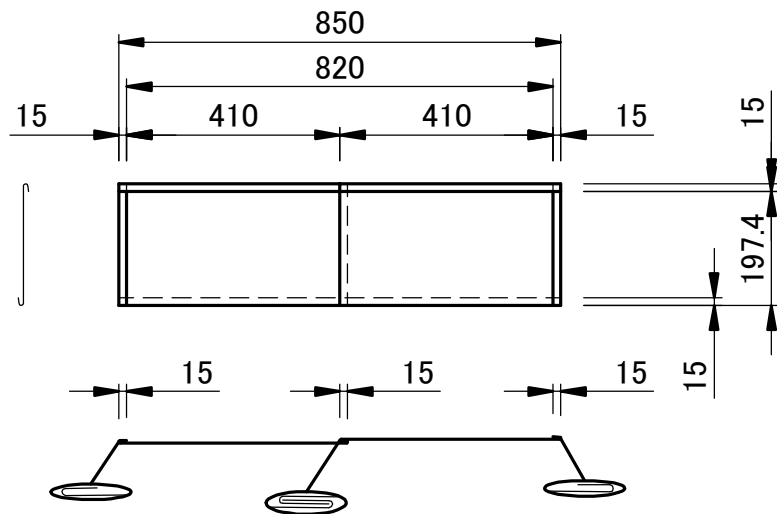
右 葺



左 葺



中 央 葺

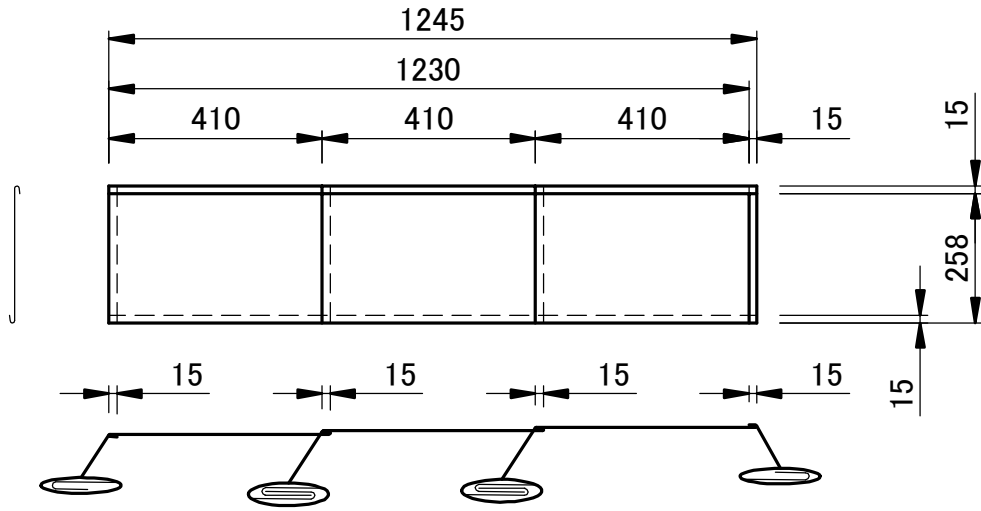


(受注生産品)

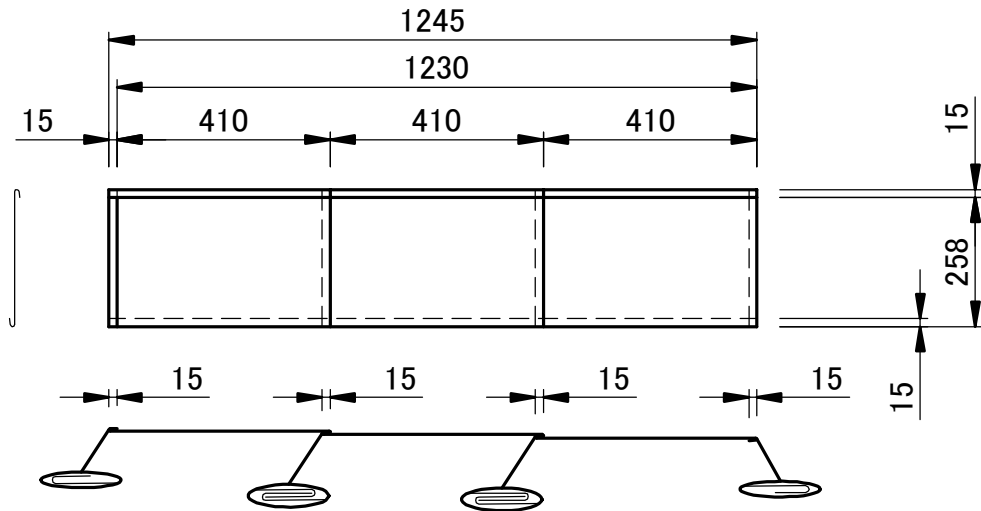
※右葺用・左葺用は兼用

258型

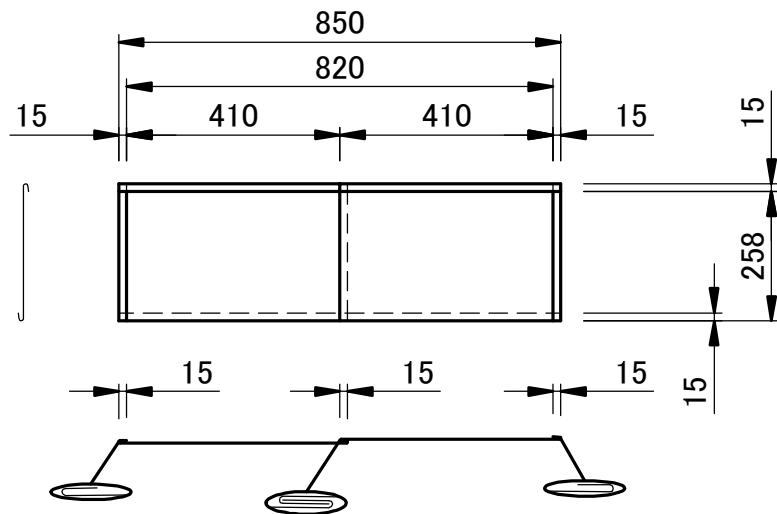
右 葺



左 葺



中 央 葺

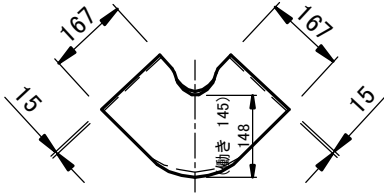


(受注生産品)

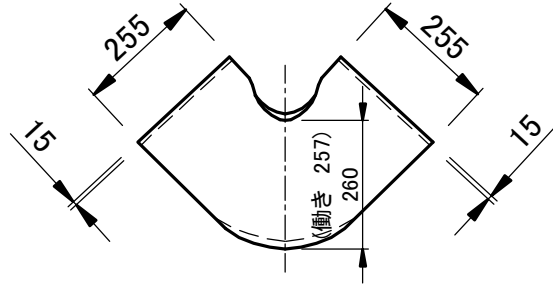
※右葺用・左葺用は兼用

4. 真生一文字付属品の形状及び寸法

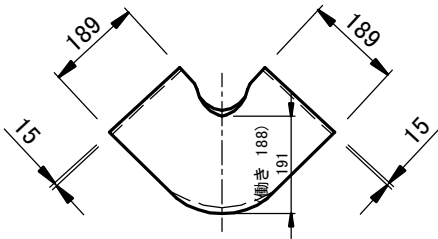
106型



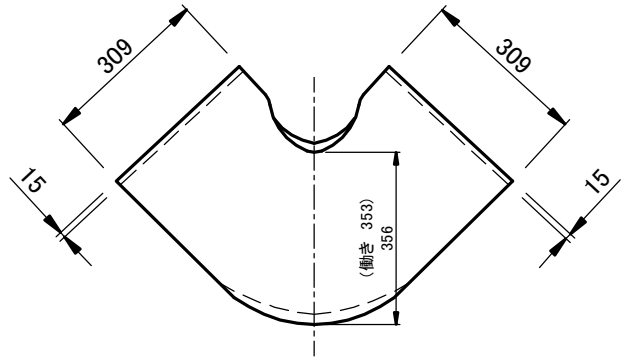
197型



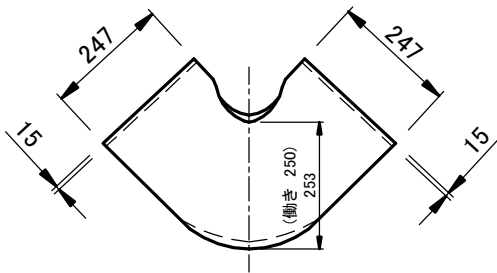
137型



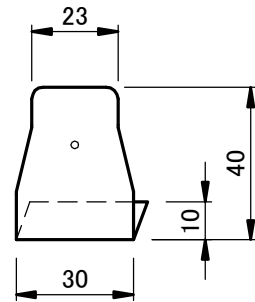
258型



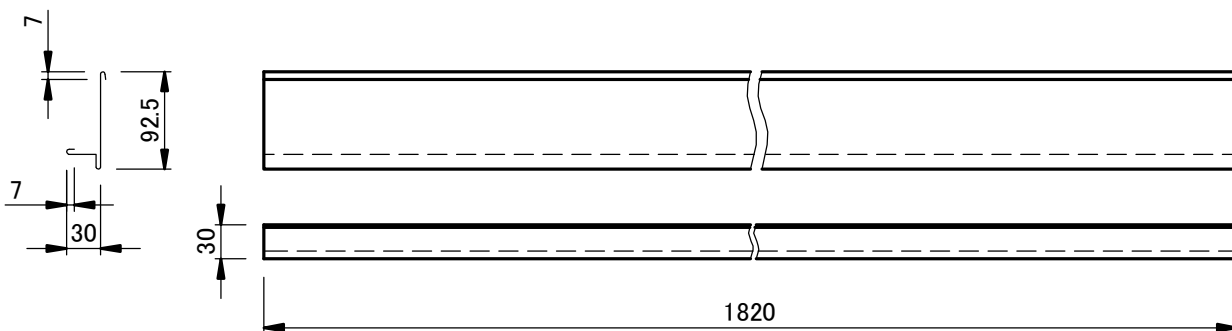
182型



吊子



唐草

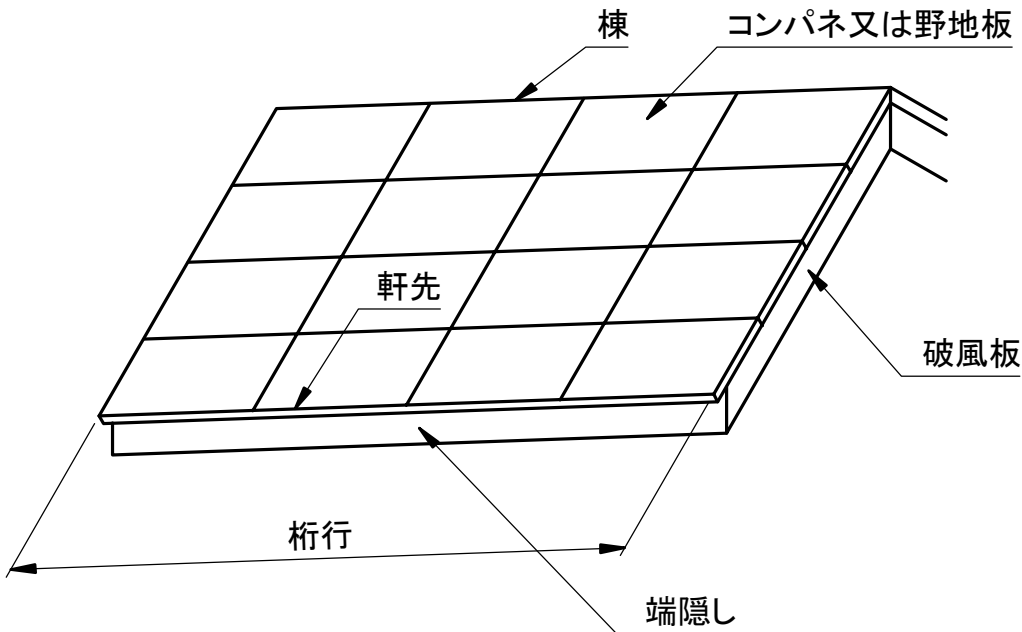


§ 2. 真生一文字の施工順序

1. 下地寸法の決め方

下地:耐水合板(コンパネ)厚み12mm以上または、十分乾燥した厚さ12mm以上の野地板を使用し、平に隙間なく張ります。

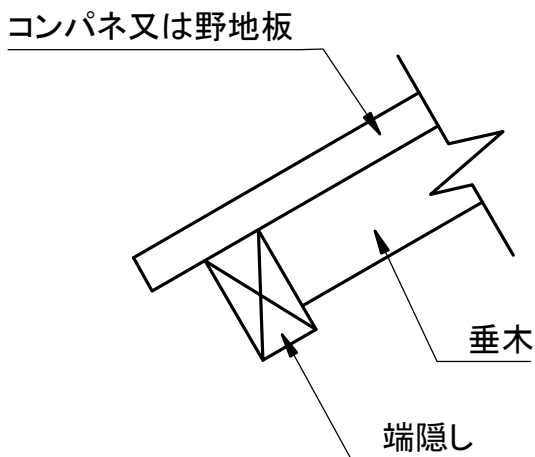
下地要領図



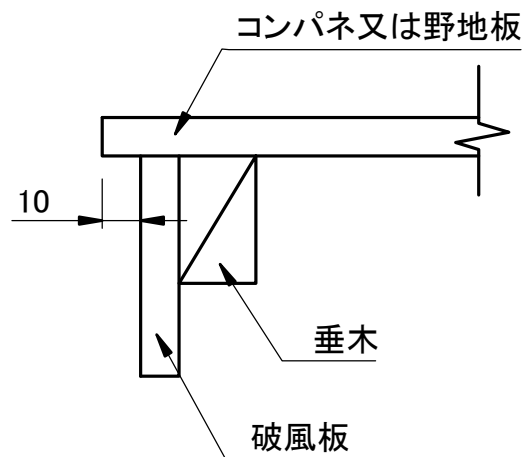
※真生一文字の屋根勾配は2.5/10以上とします。

<図-1>

軒先下地断面図



破風下地断面図

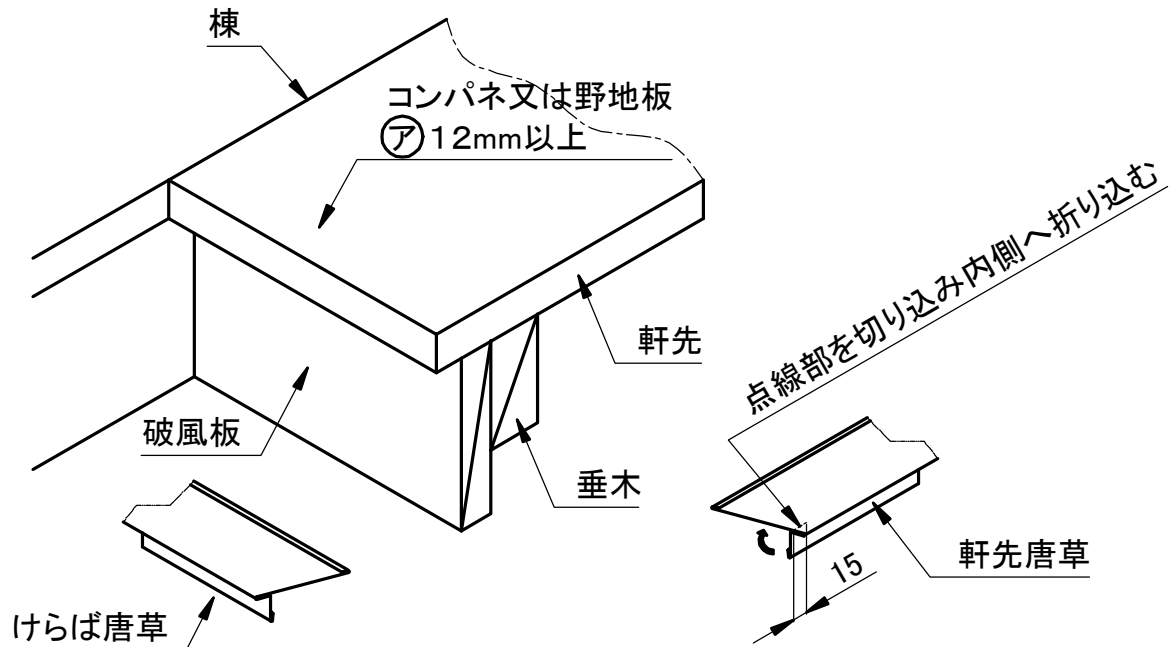


<図-2>

2. 軒先唐草取付

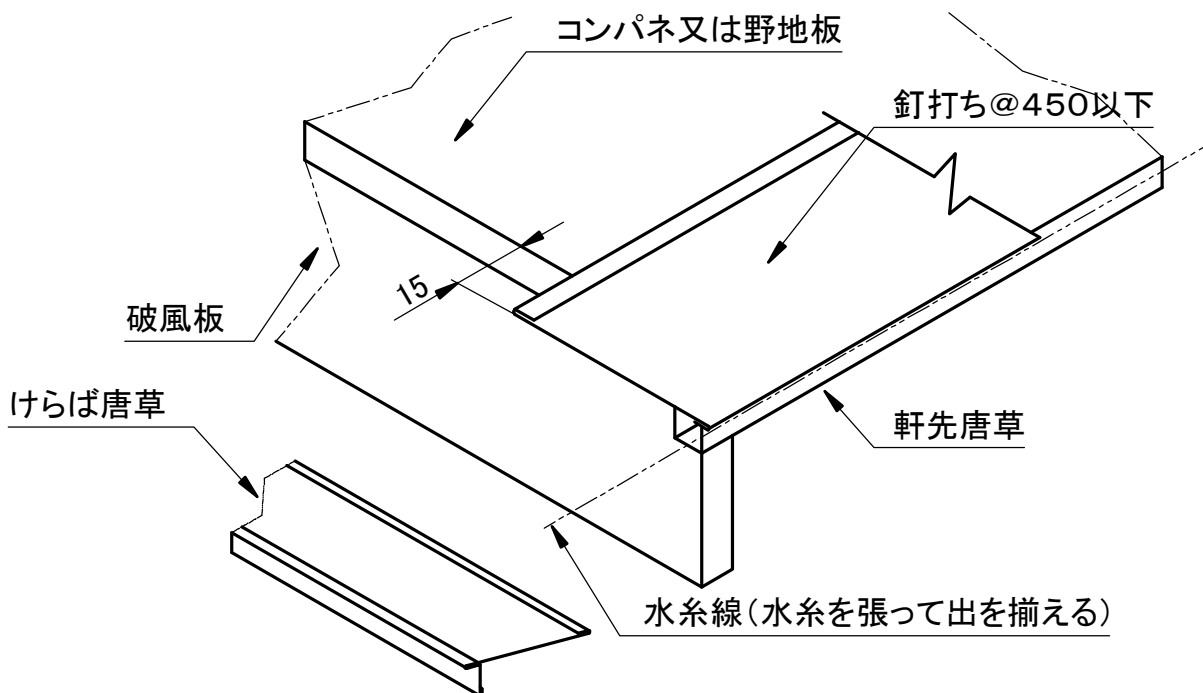
軒先に水系を張り、この水系に合わせて、軒先、唐草を通りよく逆目釘を450ピッチ以下に打つ。けらば唐草も軒先唐草と同じ要領で取付けます。

軒先及びけらば唐草取付前



<図-3>

軒先及びけらば唐草取付要領

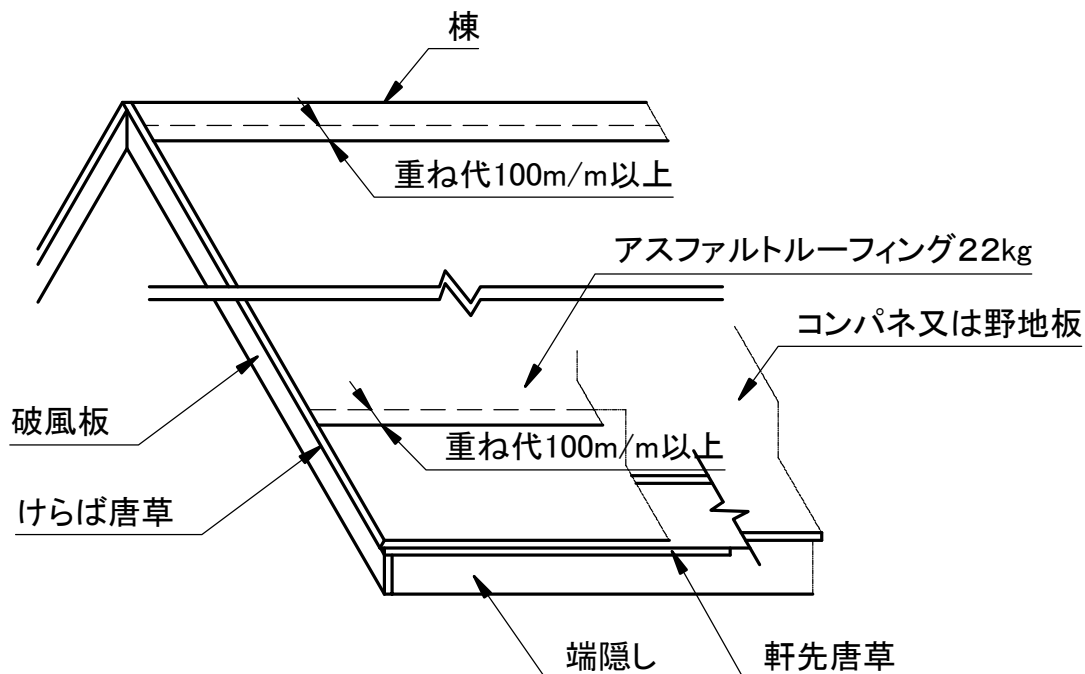


<図-4>

3. アスファルトルーフィング下貼り

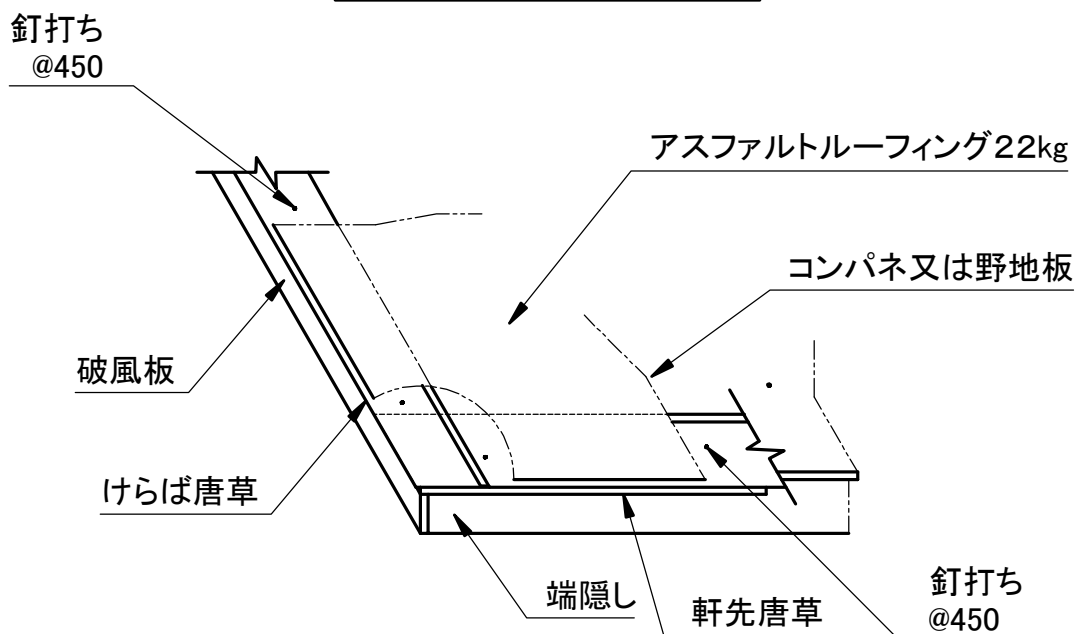
アスファルトルーフィングは、22kg以上（JIS A6005:940g/m²相当品）を使用し、軒先唐草、けらば唐草を取付けてから敷いてください。

アスファルトルーフィング貼り要領図



<図-5>

軒先、けらば防水要領図



<図-6>

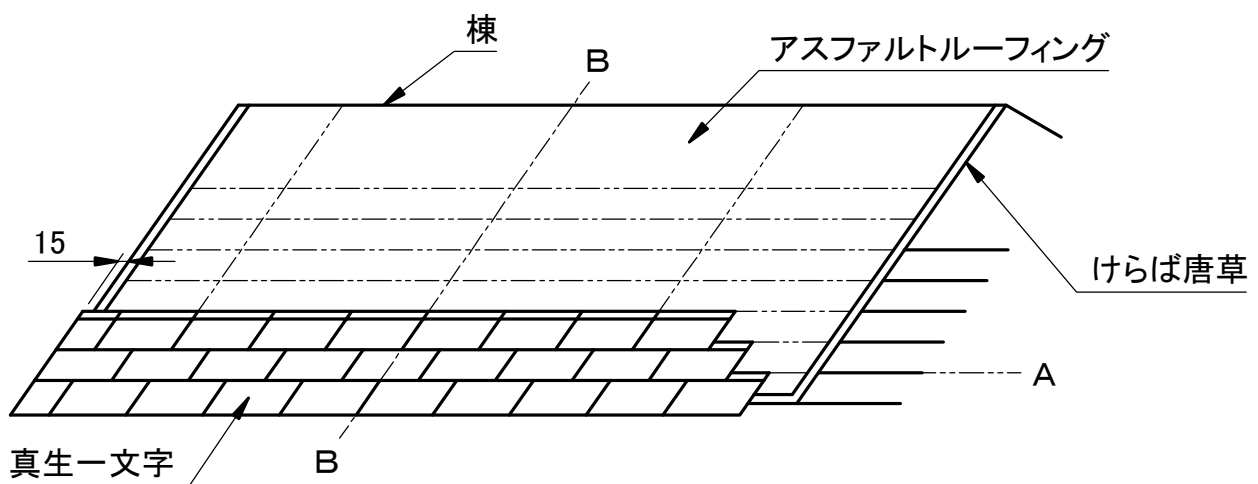
4. 墨出し

真生一文字を美しく葺くために、アスファルトルーフィングの上に墨壺で基準線を引きます。〈図-7〉参照

順序

- 1) 軒と平行に唐草水切の先端よりA線を引く。
- 2) 桁行の中心線、B線を引き、B線より両側に、縦の基準線を引きます。
- 3) A線と平行に横の基準線を引きます。

墨付け、割付け要領図



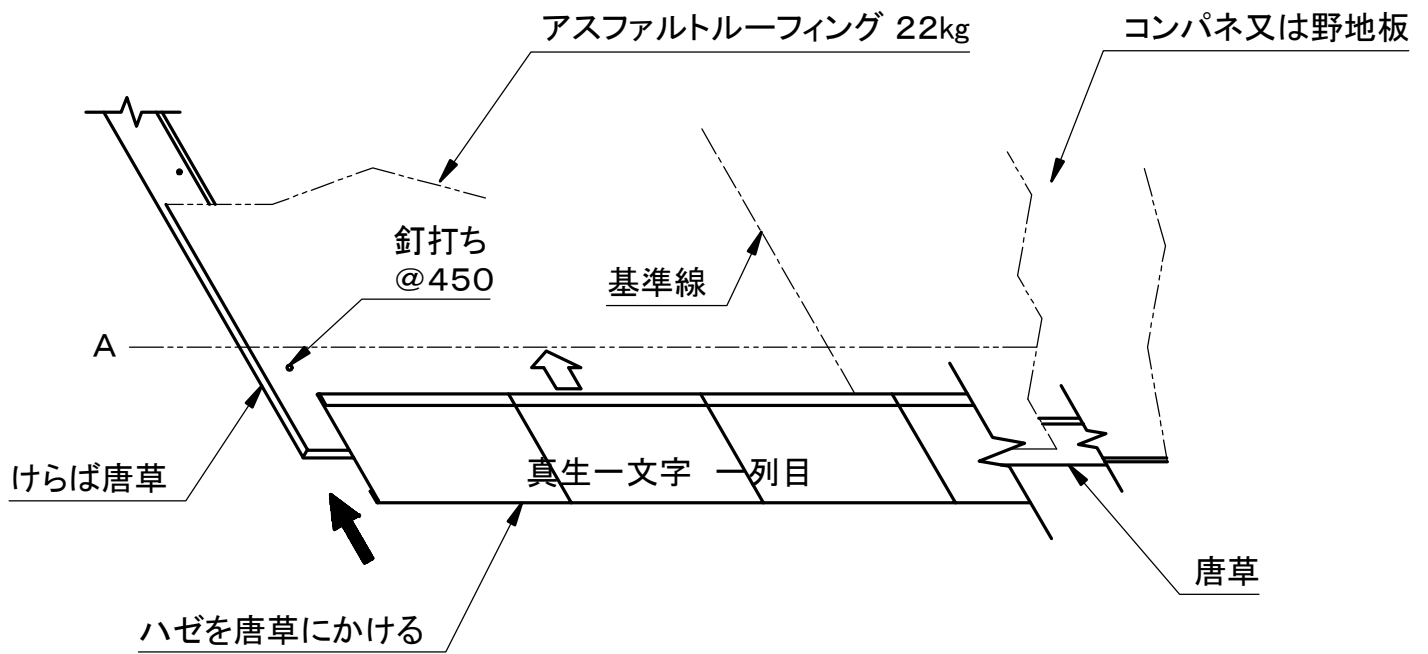
〈図-7〉

墨付け(割付け)寸法表

型 式	A 横 墨 (mm)		B 縦 墨 (mm)
	一 段 目	二 段 目 以 上	
106型	121.5	106.5	960
137型	152.5	137.5	1,077
182型	197.5	182.5	
197型	212.4	197.4	1,230
258型	273	258	

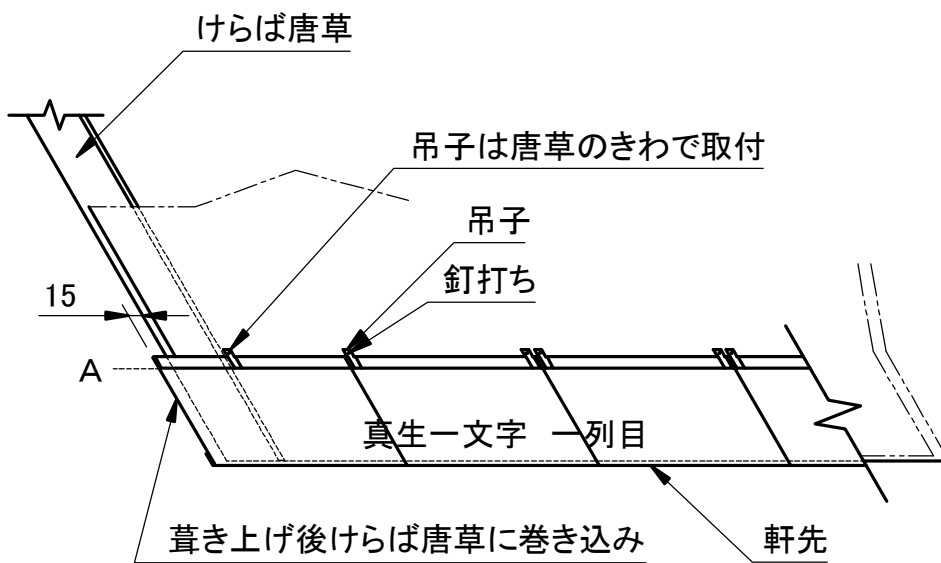
5. 真生一文字取付

手順1



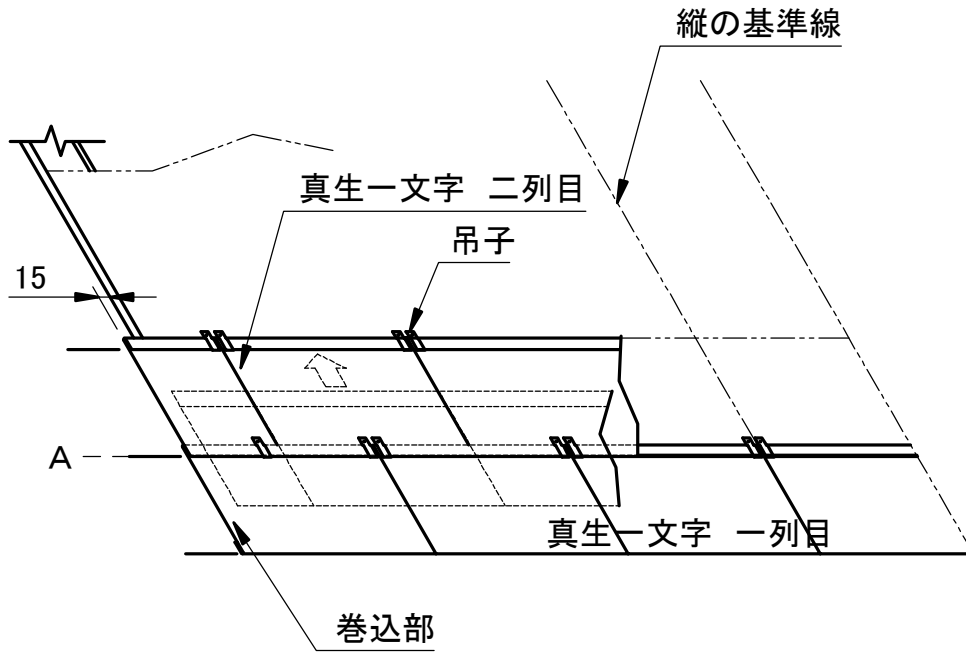
<図-8>

手順2



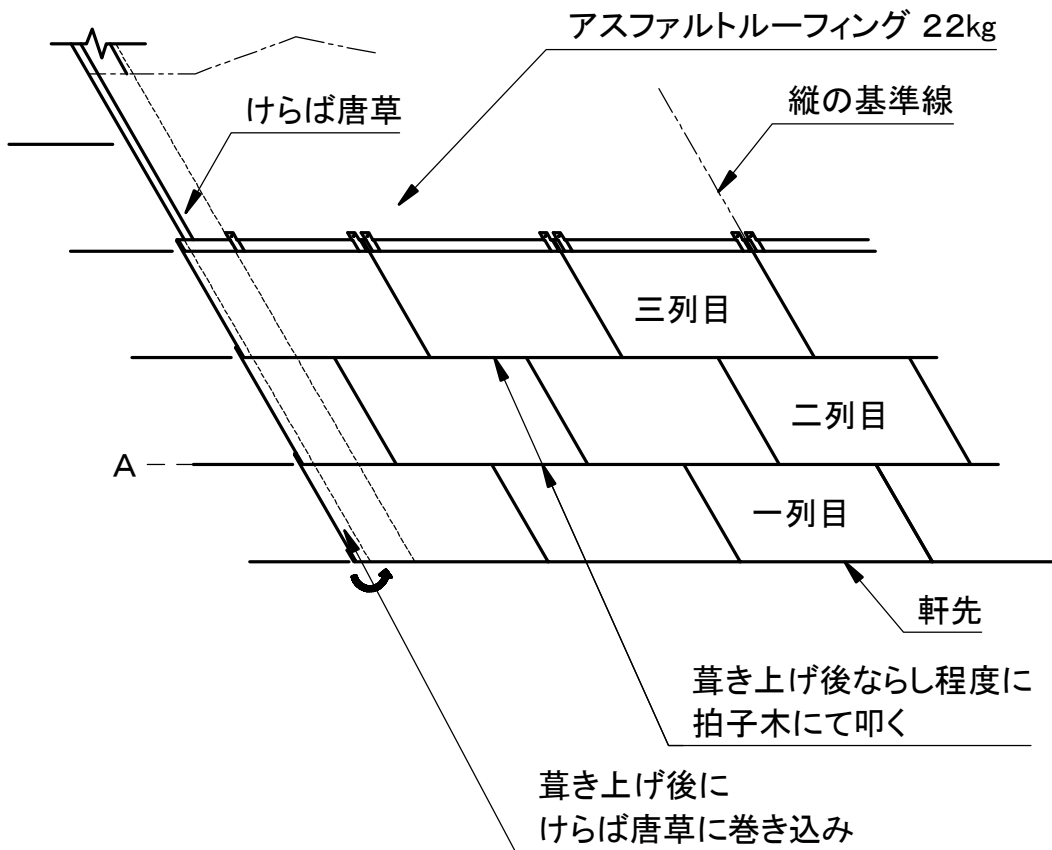
<図-9>

手順3



<図-10>

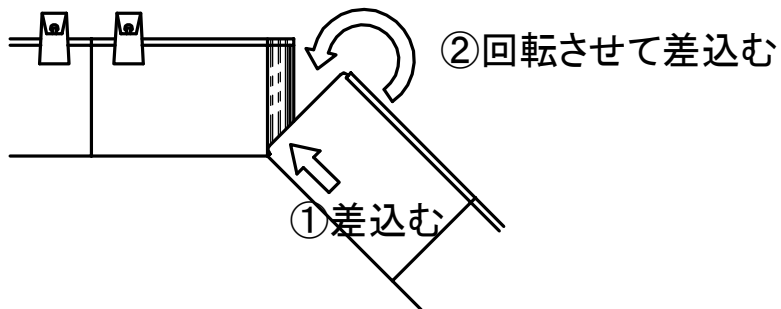
手順4



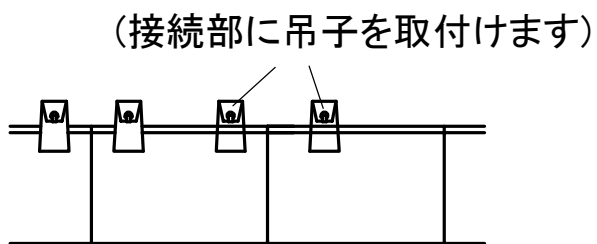
<図-11>

6. 真生一文字 I a型取付要領

1. 本体の差込み

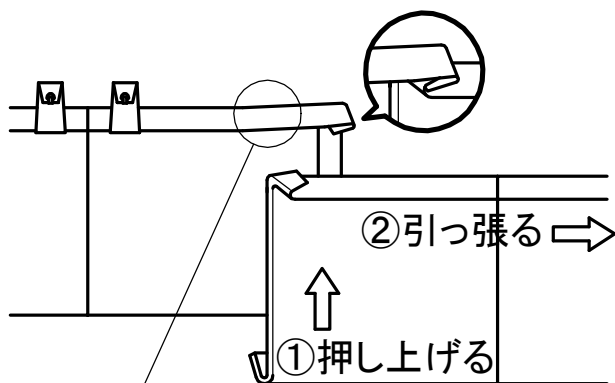


2. 完成



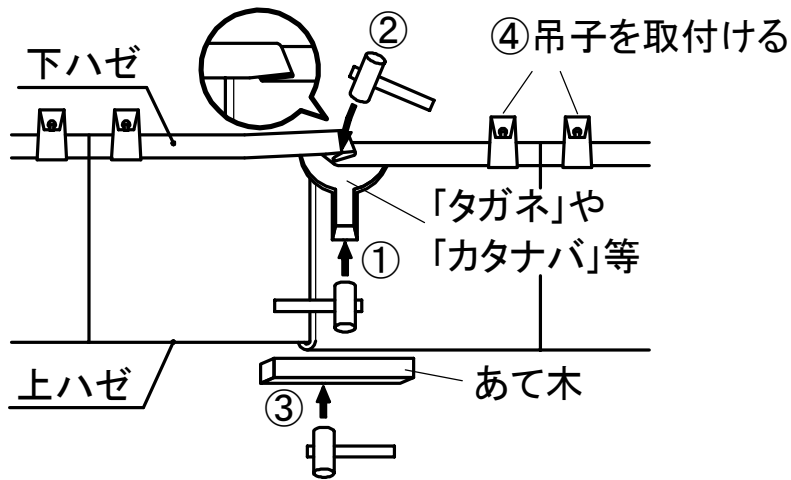
7. 真生一文字 II 型取付要領

1. 本体の接続

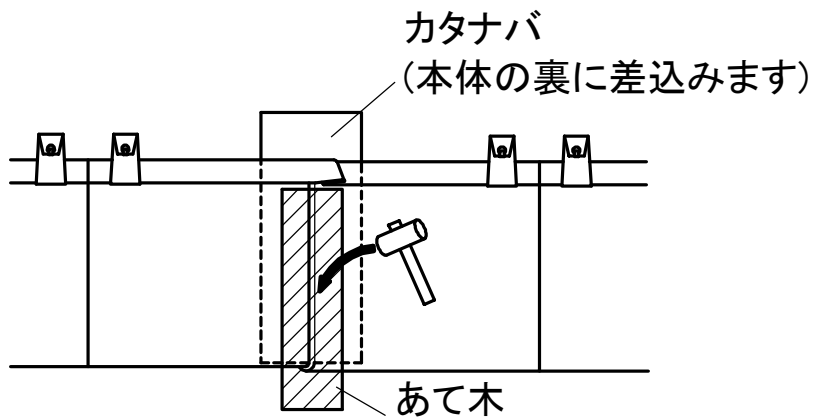


※この部分の吊子は本体接続後に取付けます。

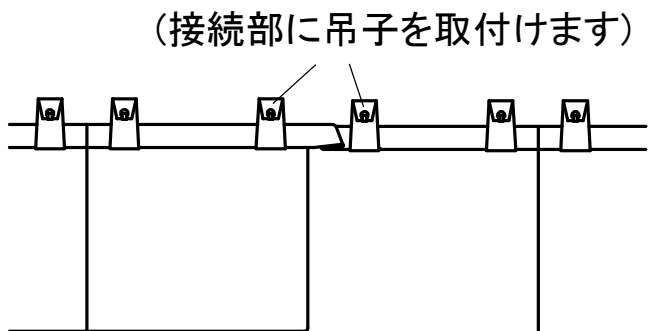
2. 横ハゼをそろえる



3. 縦ハゼを絞める



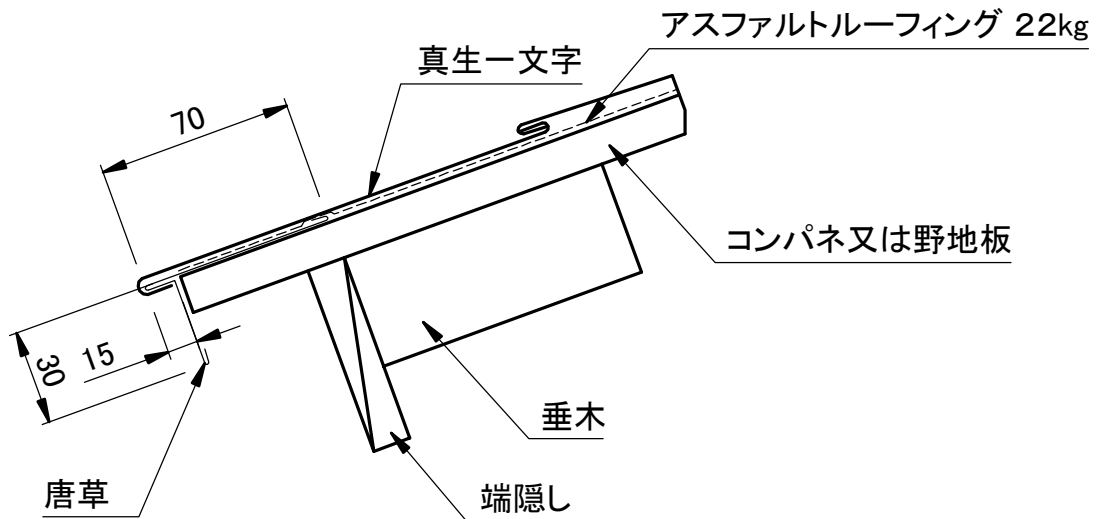
4. 完成



※葺きあがり後のハゼ締めは、全つぶしせずにカタナバ
や拍子木を用いてならず程度に絞めてください。

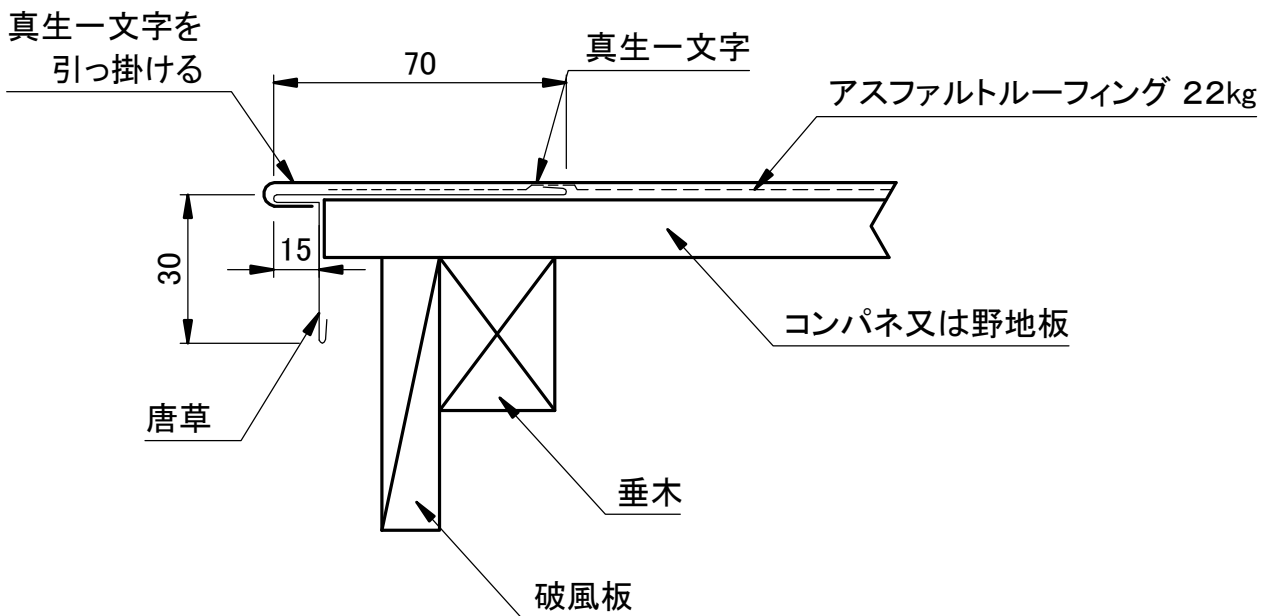
8. 軒先、けらばの納まり

軒先の納まり



<図-12>

けらばの納まり

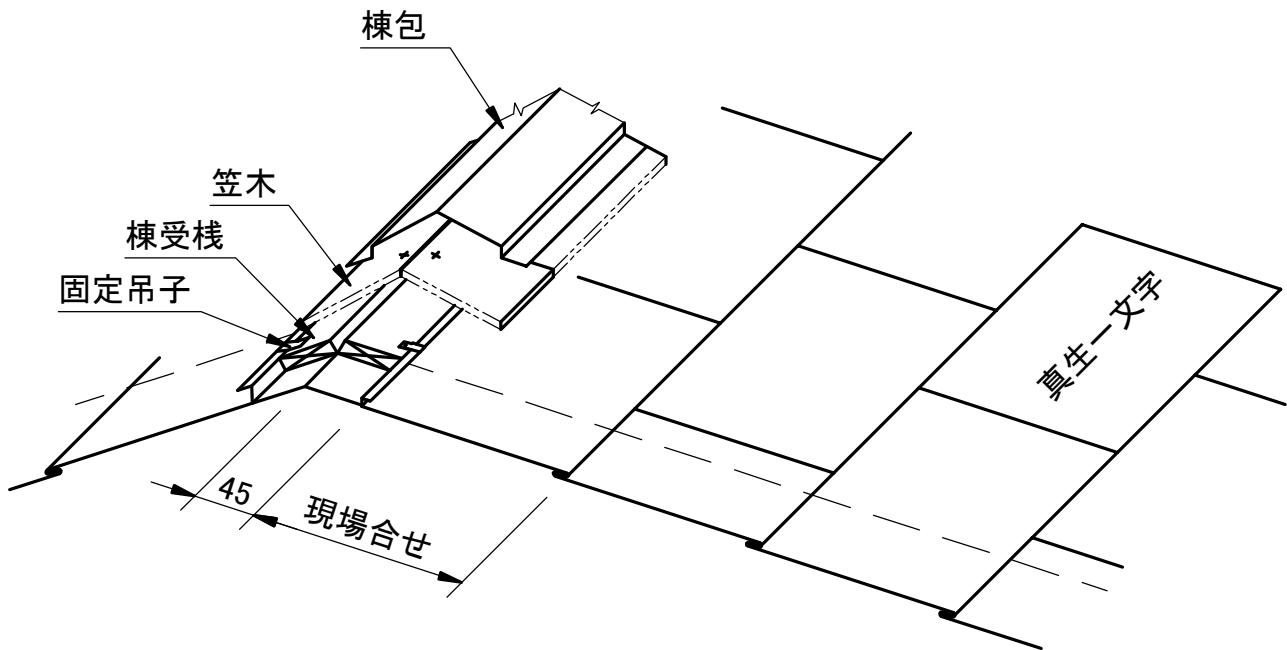


<図-13>

9. 棟包の取付方

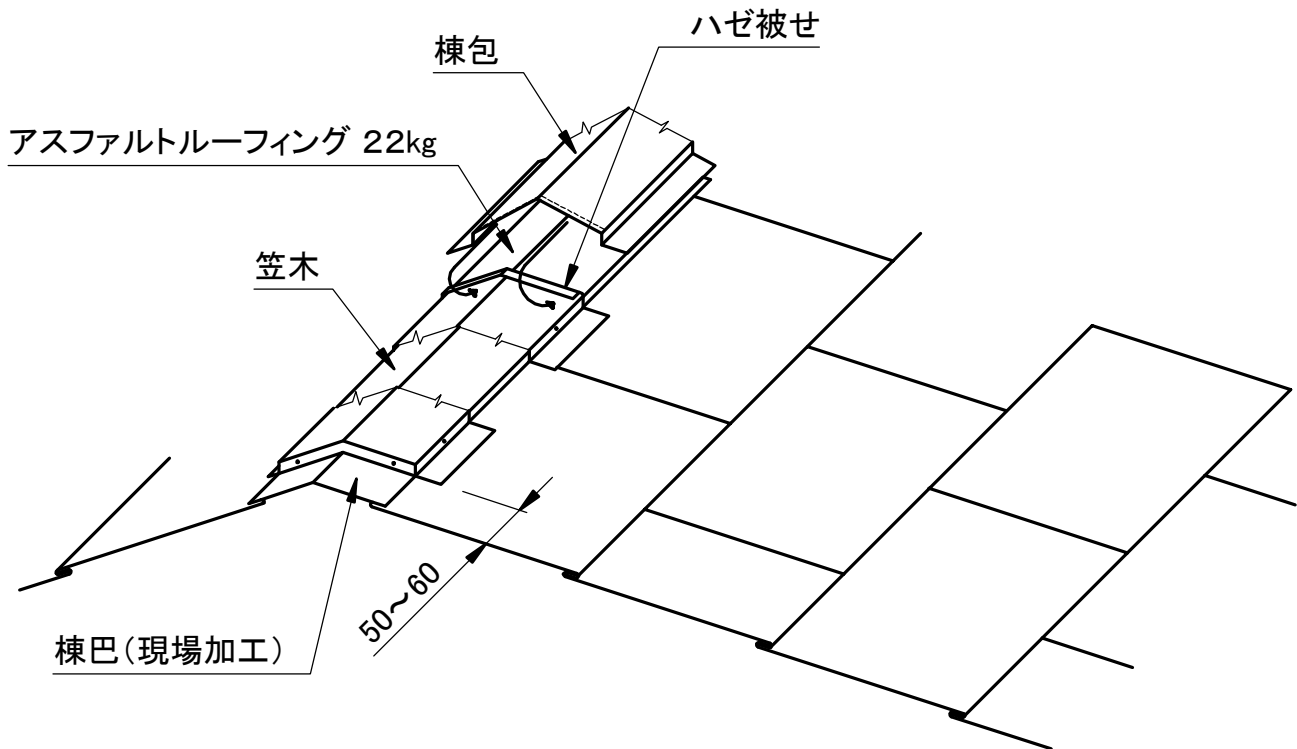
棟包納まり

手順1



<図-14>

手順2

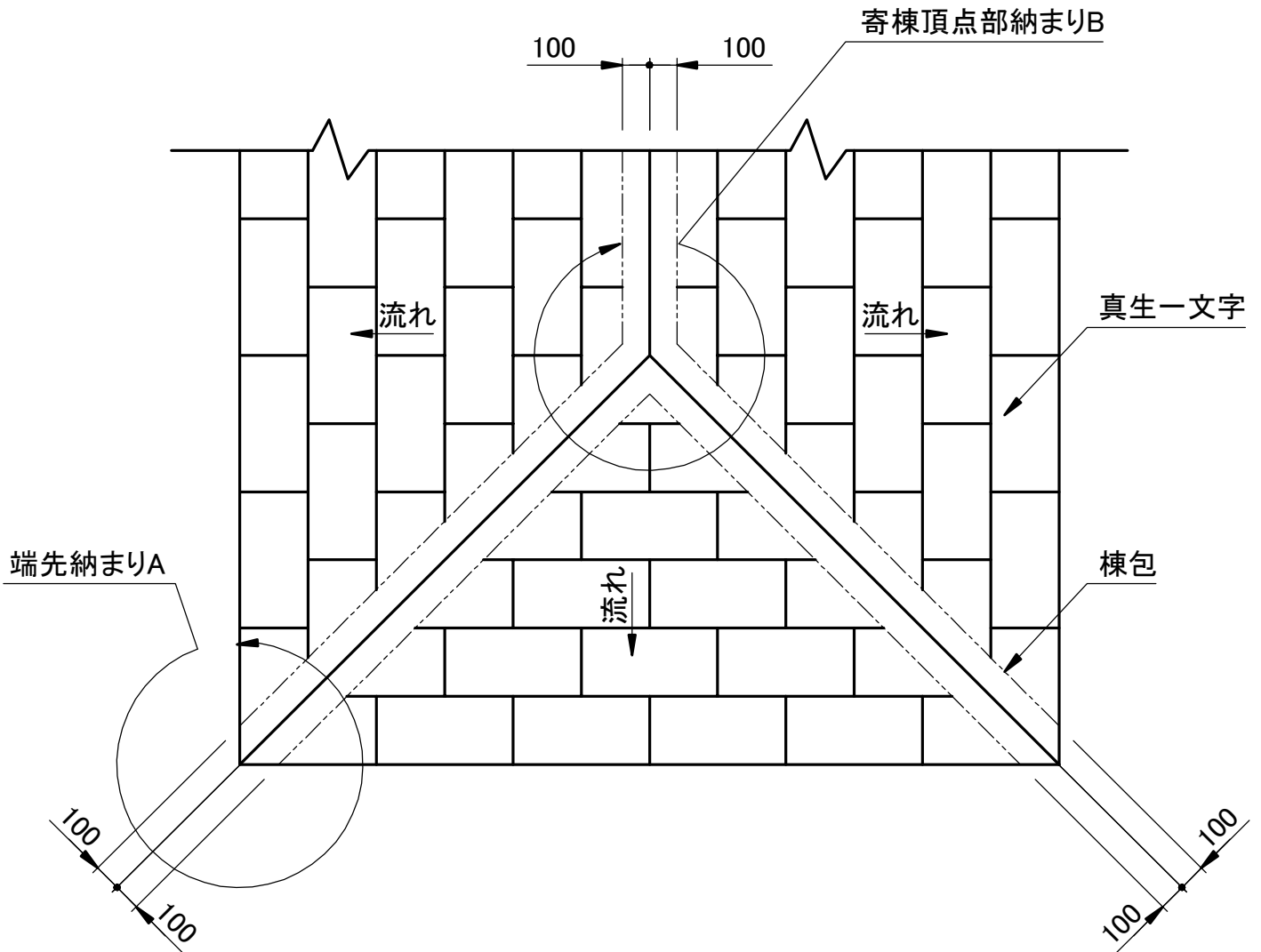


<図-15>

§ 3. 方形及び寄棟屋根の施工

方形及び寄棟屋根を葺く場合、降り棟部は笠木を棟の頂点部まで取付け、軒先から順に葺いてきた真生一文字の両端（降り棟に当る箇所）を受木棧に添って立ち上げます。（現場加工で納める）真生一文字、水切加工後、笠木を取付けて棟包みを被せます。

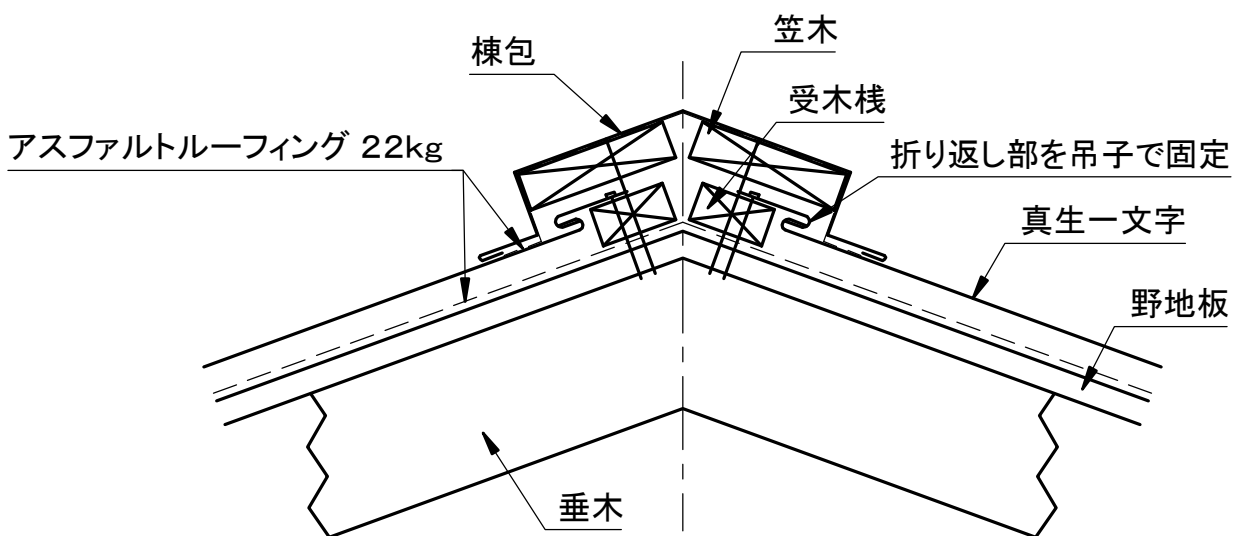
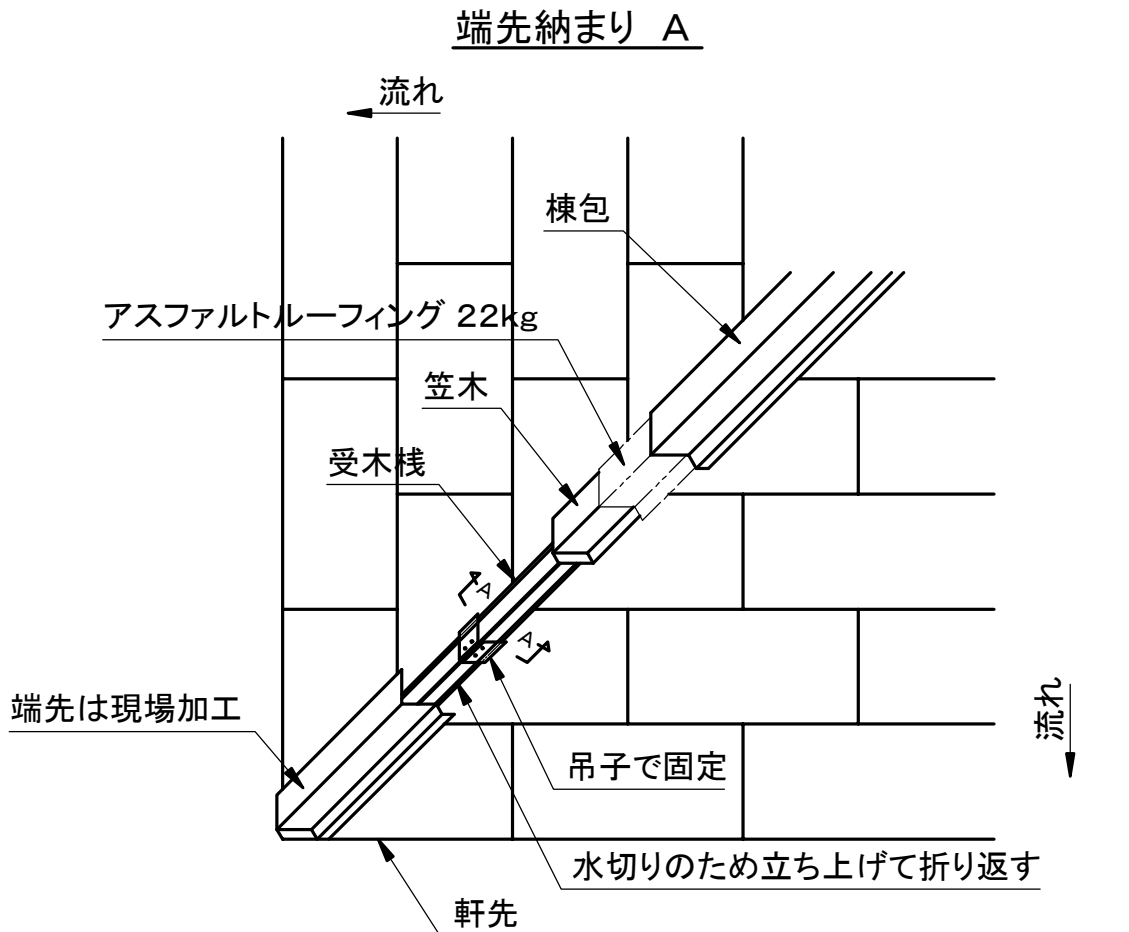
寄棟真生一文字葺伏図



<図-16>

1. 降り棟コーナーの納まり

降り棟部は、真生一文字の端を、あらかじめ取付けている受木棧に添って立ち上げ折り返し、吊子で固定します。次に、受木棧の上へ笠木を取付けて、棟包みを被せます。尚、棟包みの端先は現場加工で納めます。

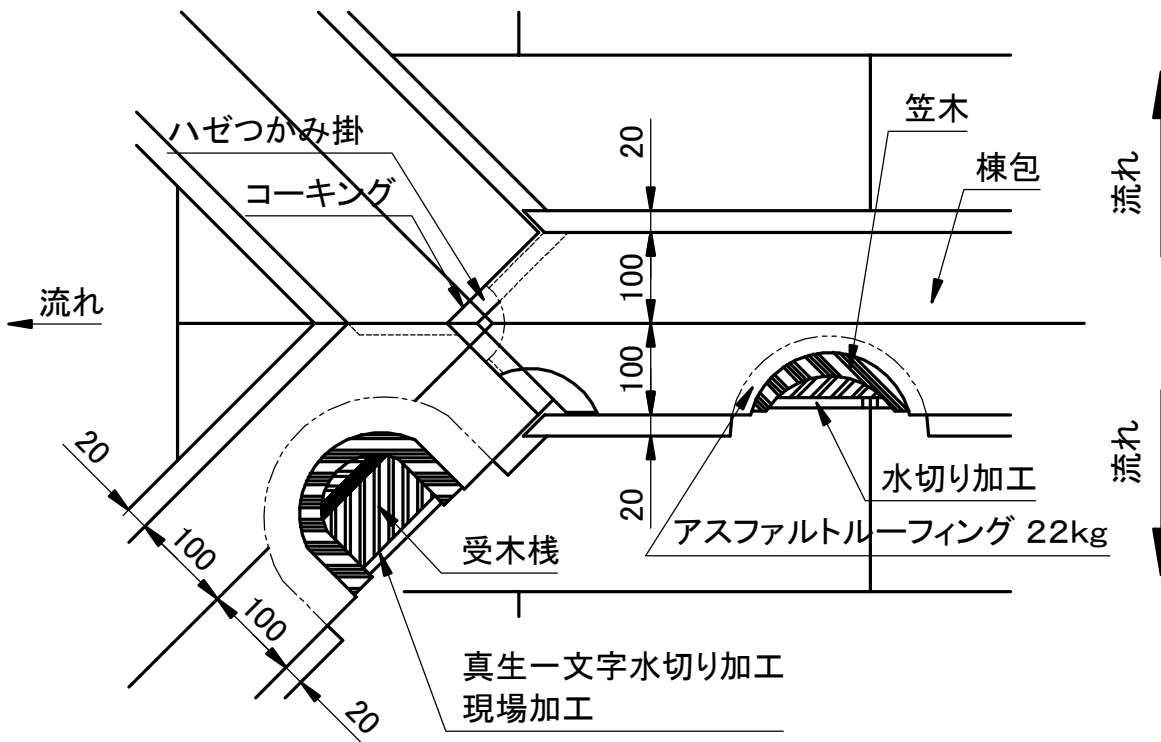


A-A断面図

2. 棟頂点部の納まり

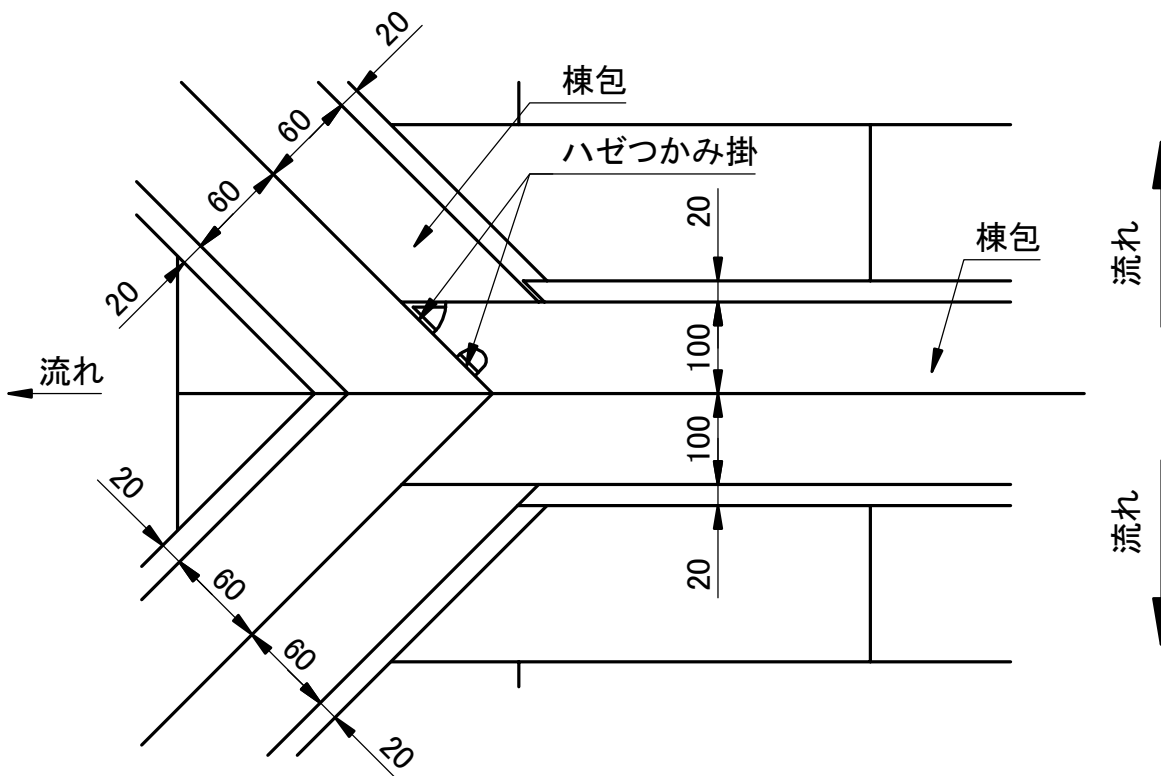
棟頂点部の納まり B

施工例1



<図-18>

施工例2

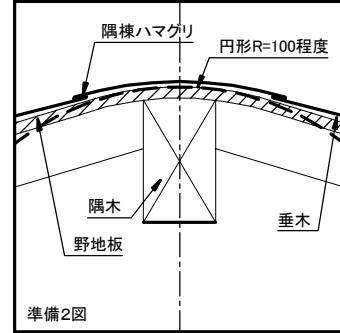
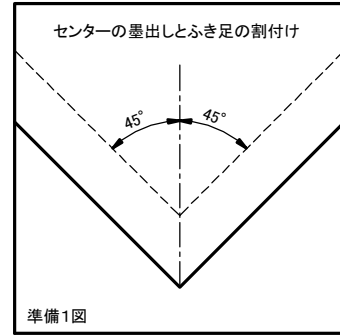


<図-19>

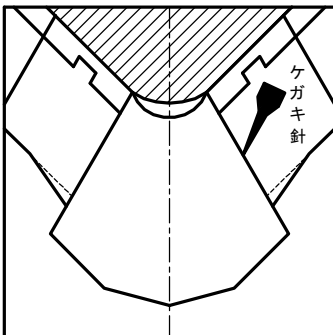
3. ハマグリの納まり

標準施工法

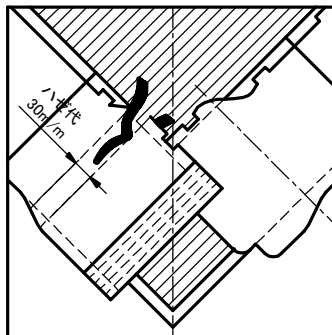
- 施工条件** : 1. 隅棟ハマグリは、水平にしてセンターから左右共に45°角の同じ勾配であること。(準備1図参照)
 2. 屋根勾配が2寸5分~4寸勾配のものであること。(これ以外の勾配については当社にお問い合わせください。)
 3. 野地板のつきつけ部は100R程度のアールをつけます。(準備2図参照)



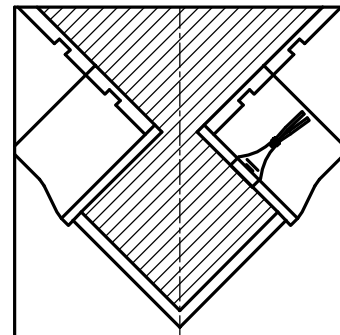
施工手順



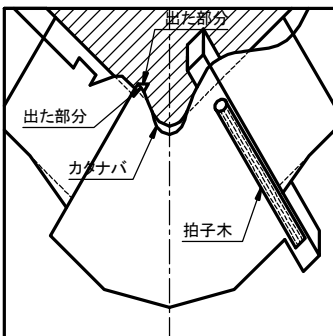
① 始めの隅棟ハマグリ(現場手配)の中心をセンターに合わせてハゼ位置に印をつけます。



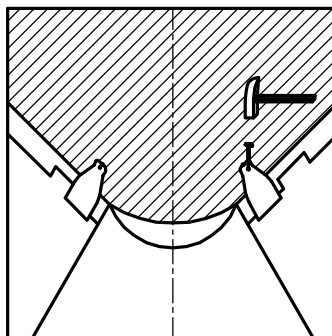
② ハゼ代30mmを余分に控えて本体を切ります。



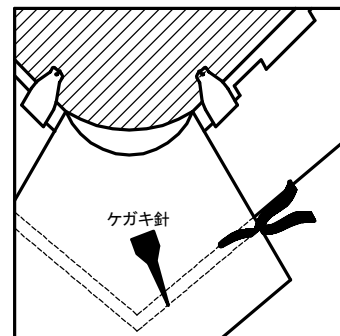
③ タテハゼをつくります。



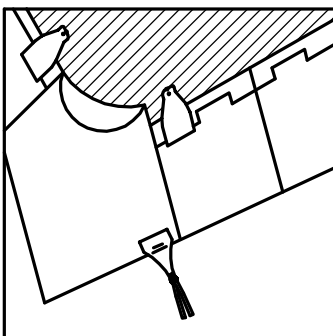
④ 始めの隅棟ハマグリを取付け、勾配の出た部分を切り下ハゼを揃えます。



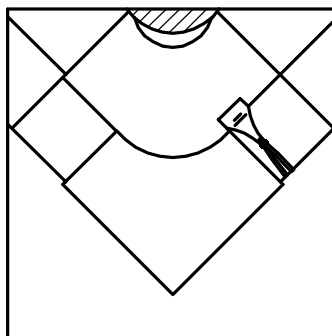
⑤ 吊子で固定します。



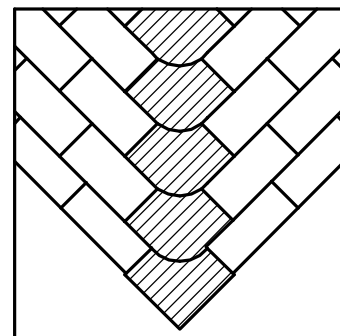
⑥ 唐草の折下げ分を余分に取り、線を入れて不要分を切落します。



⑦ 唐草に沿ってツカミ込みます。



⑧ 2段目以降はハマグリを1段目と同じようにセンターに合わせて取付けます。



⑨ 完成図(当社のハマグリは、2寸5分~4寸の勾配に対応しています。)

4. 雪止めの取付け

取付方法

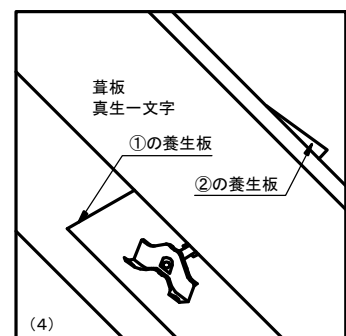
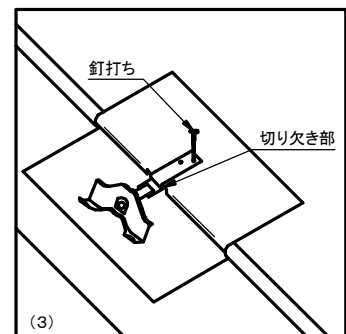
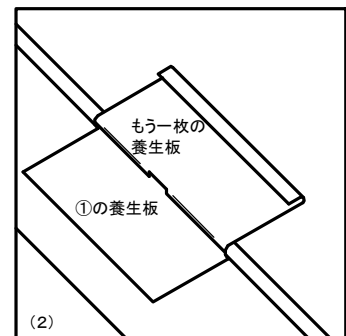
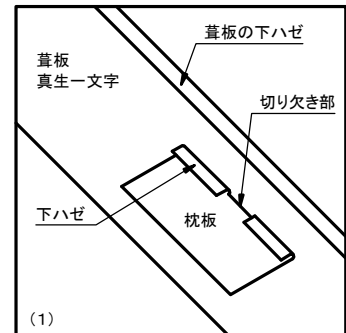
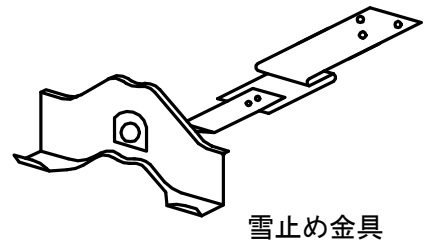
取付手順

1. 真生一文字の葺板の下ハゼに、養生板を差込んでください。
この時、養生板の下ハゼになる部分に切り欠き部をつくっておきます。
2. もう一枚の養生板を用意し、(1)の養生板の切り欠き部に合わせ、もう一枚の養生板の上ハゼ部も切り欠きます。
葺板と養生板の下ハゼを、同じように包むようにして引っ掛けます。
3. 雪止めの波形(1)と(2)の養生板の切り欠き部に合わせた後、棟側に引っ張り、雪止めの足部をたる木に釘打ちして固定します。
4. 次に葺く板を、養生板にかぶせるようにして上ハゼを雪止めの足部(波形の部分)に引っ掛け、一文字を棟側にあげて葺き上げます。

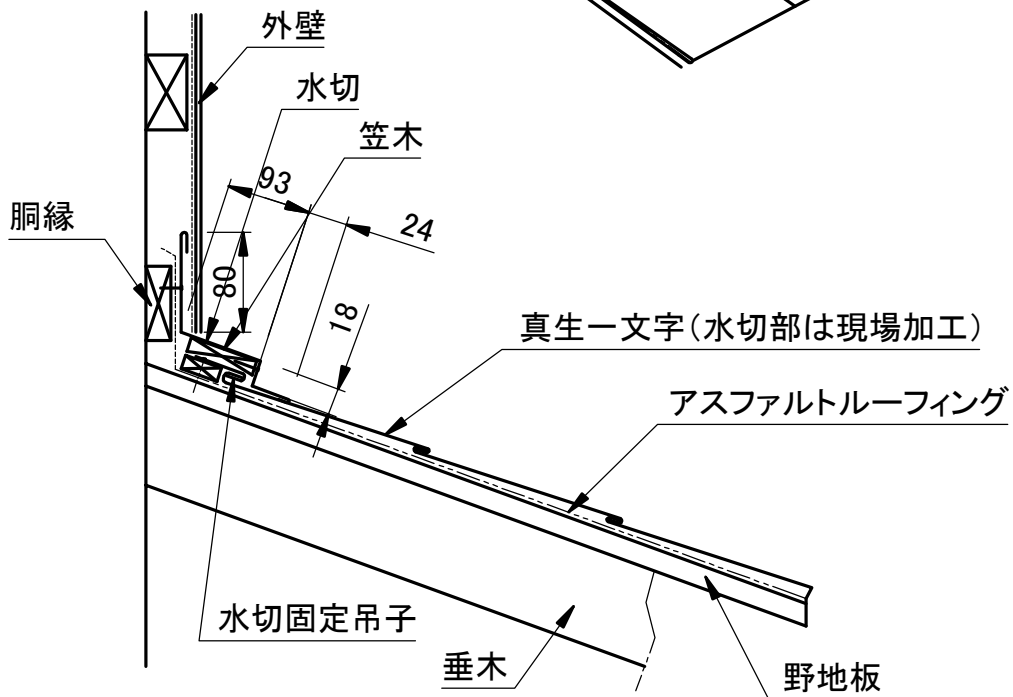
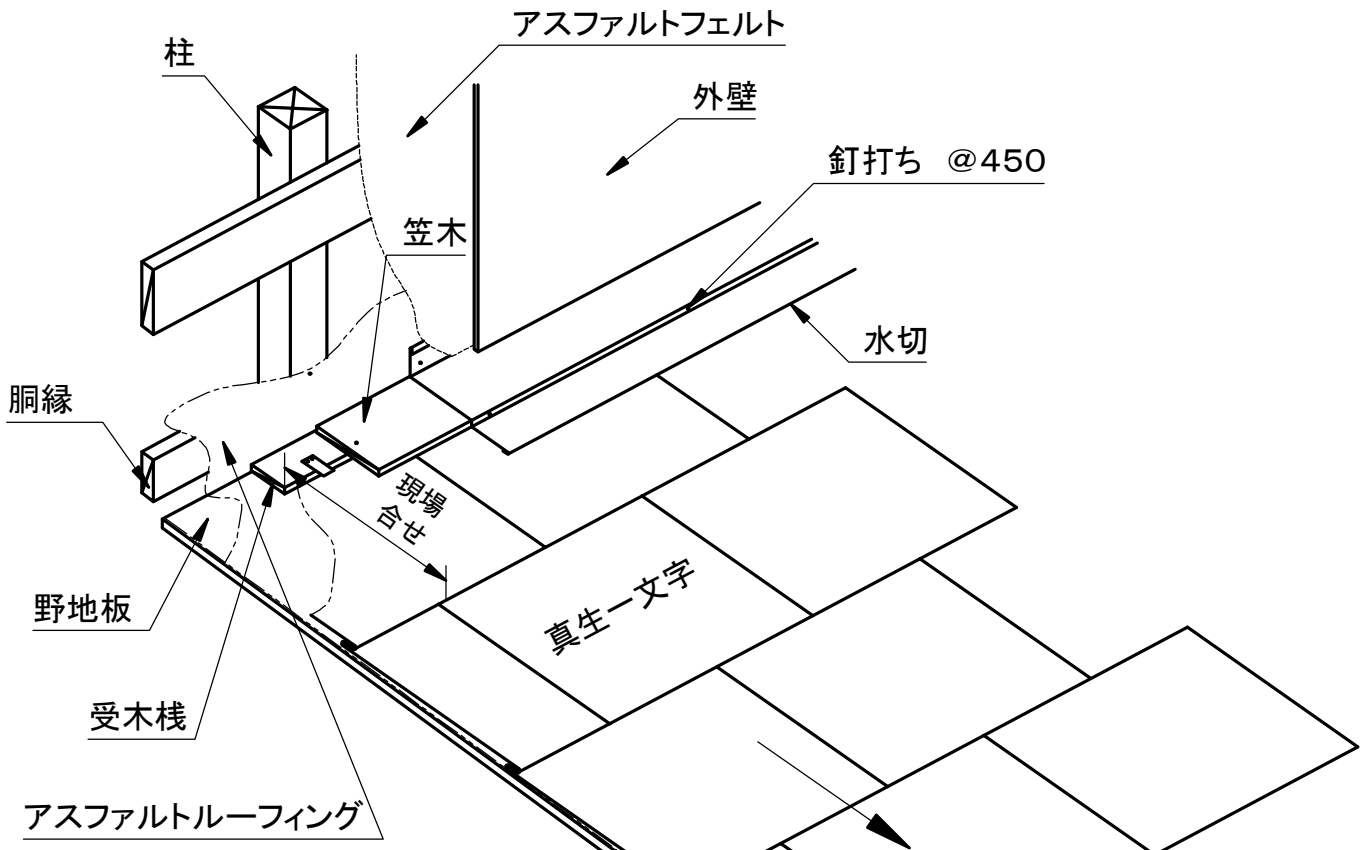
利 点

雪止め金具取付けのおすすめ

- ①雪止め金具を取付けることにより、雨といを雪から守ります。
- ②建物が隣接している場合は特におすすめします。
- ③金具の取付けは、屋根の施工時には簡単ですが、施工後は困難となります。



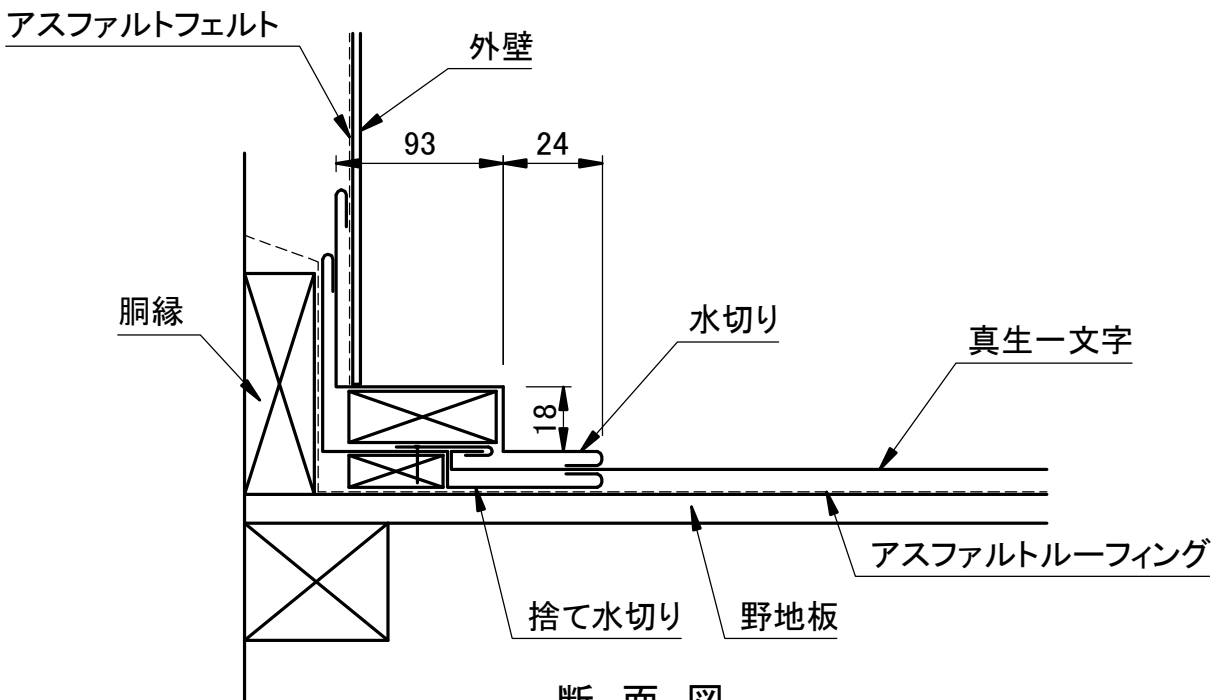
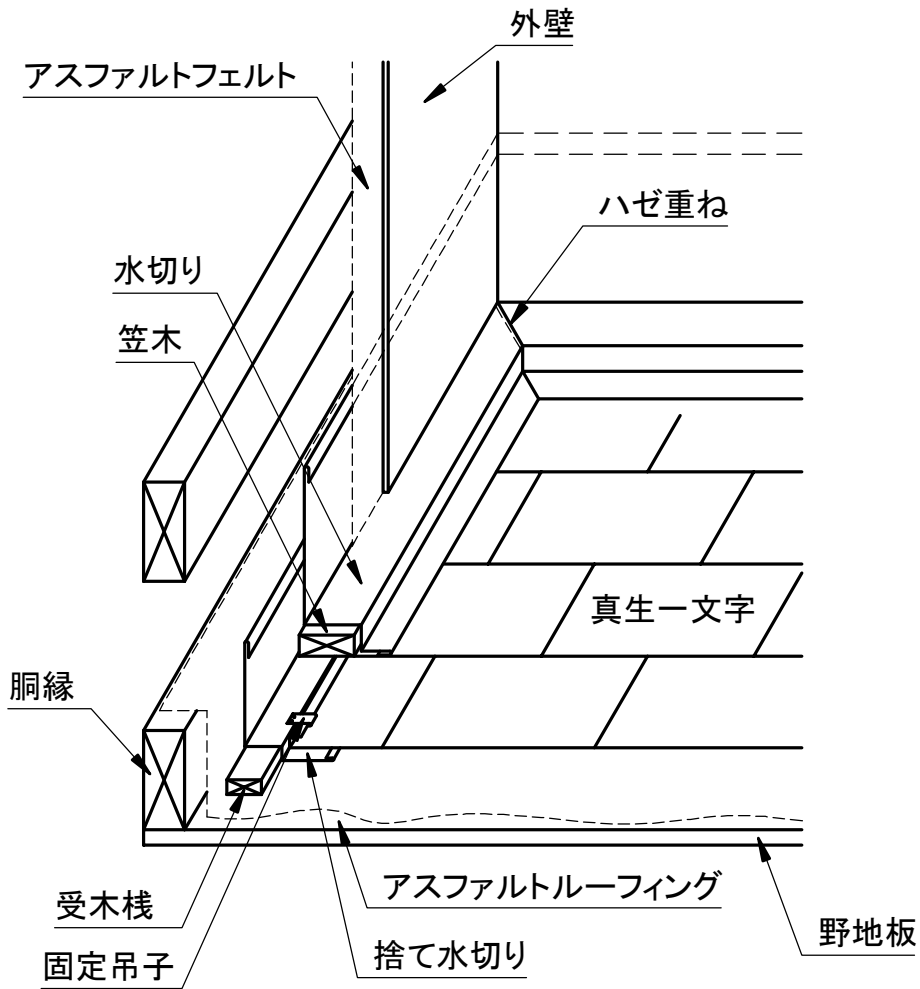
§ 4. 外壁と屋根の納まり



断面図

<図-20>

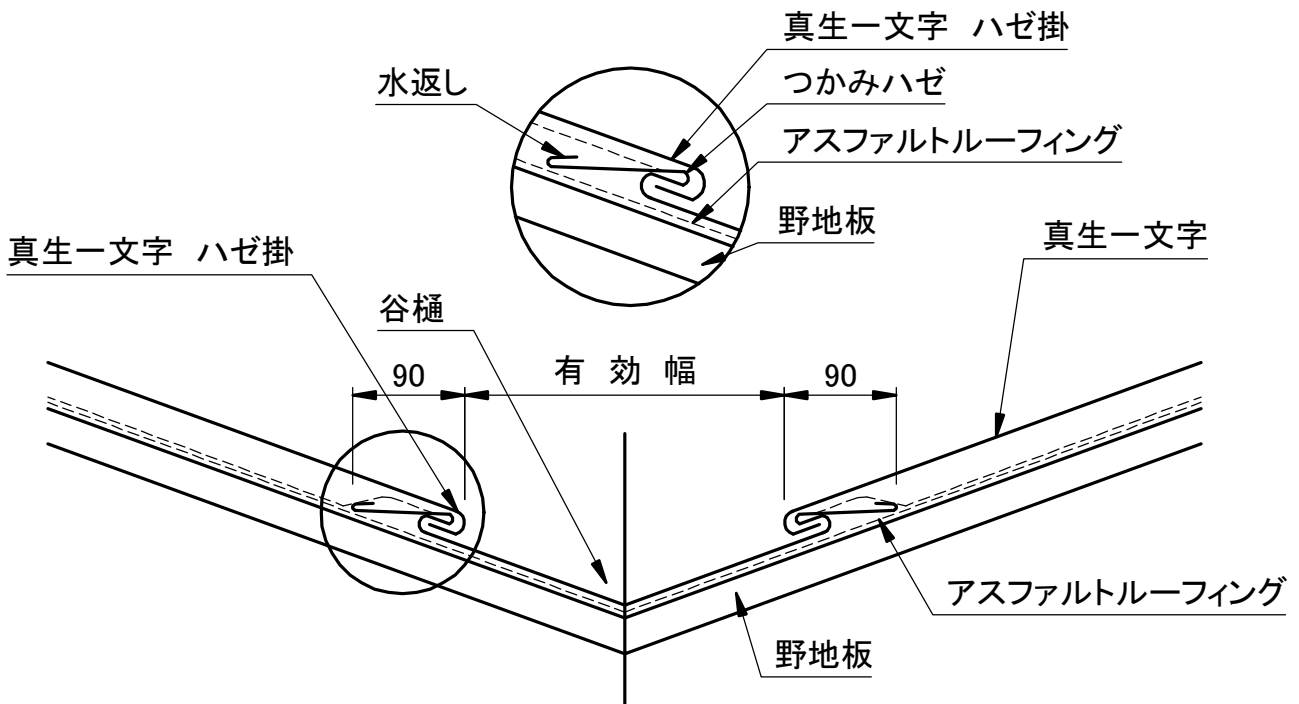
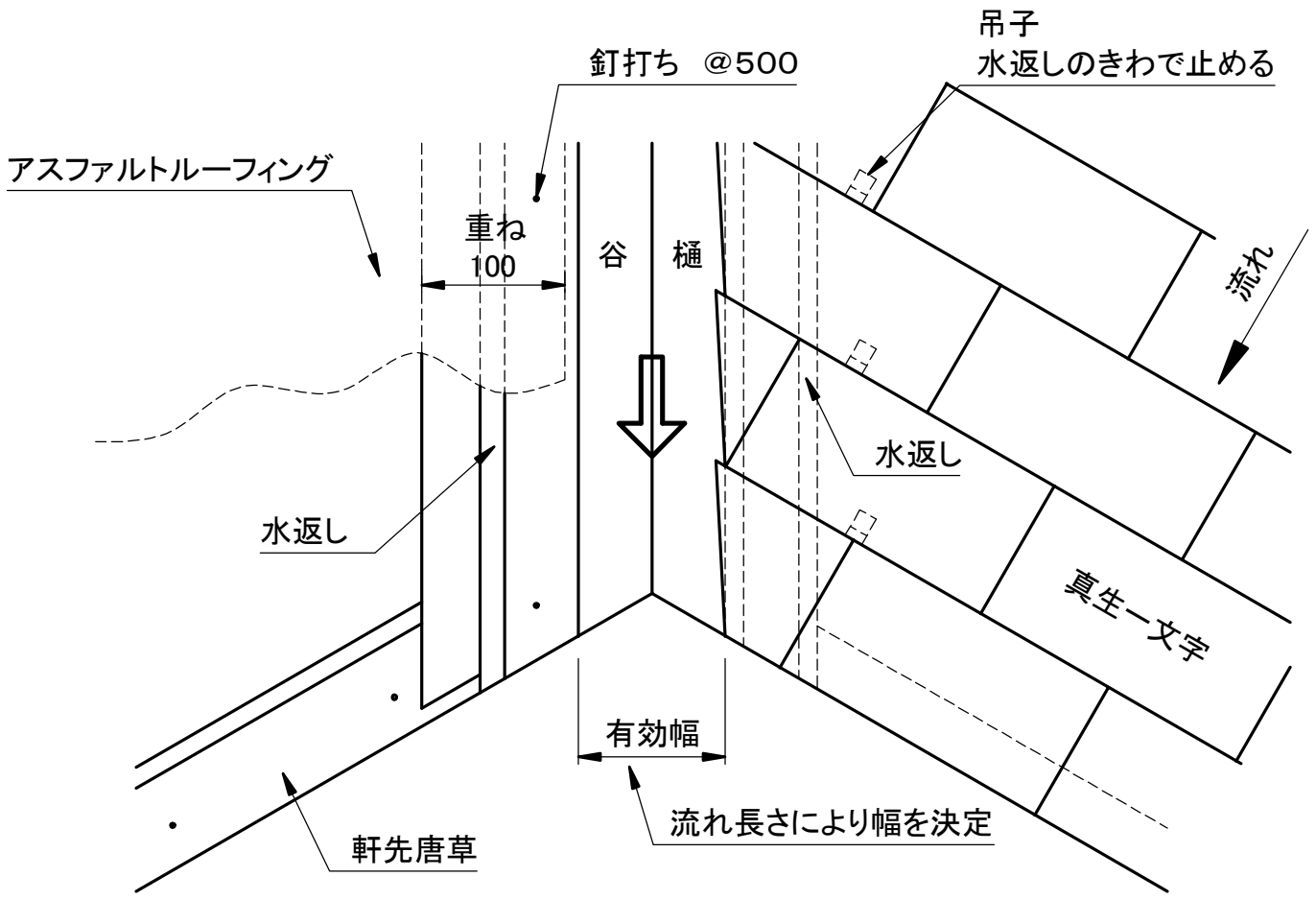
§ 5. 外壁と流れ側の納まり



断面図

<図-21>

§ 6. 谷樋と屋根との納まり



※谷樋のルーフィングは2重にすると尚よい。

谷樋納まり断面図

<図-22>

§ 7. 製品の取扱い及び保管

“真生一文字”は、外傷を受けると、外観が見苦しくなるため、その取扱いについては十分注意してください。

運搬の場合、乱暴な取扱いは一切避け、荷降ろしの際は、台上より直接落下させず、滑台等を使用してください。屋外に放置する場合は、外傷防止の目的でシート等の保護処理をしてください。

施工上のご注意

1. 銅板は、素手でふれると指紋等により色斑が生じ、見苦しくなりますので、必ず作業用手袋を着用して作業を行ってください。
2. 真生一文字を葺上げ後、外壁モルタル塗り、吹付け及びペンキ塗り等の場合、製品を汚したり、傷つけたりしないよう十分養生してから作業を行ってください。
3. 棟包及び水切り等の外部に出ている釘の頭部は、コーキング材を塗布してください。
4. 屋根下地に、断熱材(スチール、木毛板等)を使用する場合は、必ず野地板の下に取付けてください。
5. 軒先に梯子を掛ける場合は、当て物で軒先を保護してください。
6. 葺終った屋根には、直接上がらないようにしてください。